

VI 体育・健康教育授業地区公開講座

体育・健康教育授業地区公開講座（大森第四小学校）

1 目的

- (1) 心と体を開放し、相手と関わりをもって運動に親しむ。
- (2) ゲストティーチャーの話を聞き、運動に親しむことの楽しさを味わう。

2 実施日 令和2年2月15日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 4年1組 体づくり運動・表現運動
ゲームを取り入れた運動・音楽に合わせた運動・創作ダンス等
 - (2) 第2校時 4年3組 体づくり運動・表現運動
ゲームを取り入れた運動・音楽に合わせた運動・創作ダンス等
 - (3) 第3校時 4年2組 体づくり運動・表現運動
ゲームを取り入れた運動・音楽に合わせた運動・創作ダンス等
- ※3クラスとも同じ内容

4 成果

- (1) ゲストティーチャーや友達と関わりながら運動に親しむことができた。
- (2) 音楽に合わせてそのリズムに合わせて体を動かす楽しさを味わうことができた。
- (3) グループ活動では、体しりとりに取り組んだ。テーマに沿って体全体を使って表現活動に取り組むことができた。

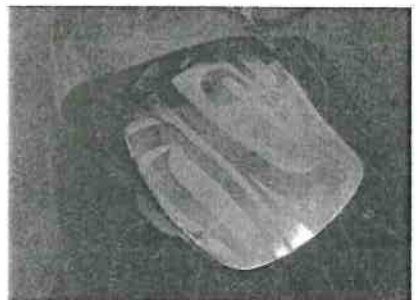
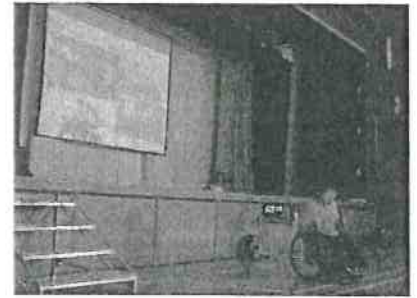
5 課題

- (1) 表現領域のため、心を開放して活動するまでに時間が必要であった。低学年から系統的に表現運動遊びに取り組み、体育の全領域や特別活動等において友達と関わる機会を十分にとる指導を心掛けることが大切である。
- (2) 当日は気温が低く、体が十分に動くのに時間がかかった。内容を吟味するとともに、実施時期等についても考慮する必要がある。



体育・健康教育授業地区公開講座（中富小学校）

- 1 目的 トップアスリートとの交流を通して、パラリンピックやアイスレッジ、ボッチャなどのパラリンピックの種目や障害者についての理解を深めるとともに、誰もがスポーツに親しむことができることを知り、すすんでスポーツに親しもうとする心情を養う。
- 2 実施日 令和元年11月29日（金）8：45～9：30
- 3 内容 第1校時 講演会：（全学年・保護者・地域対象）
講師：バンクーバーパラリンピック
アイスレッジ銀メダリスト 上原 大祐氏
講演：「夢をもつことの大切さ」
- ① 東京2020オリンピック・パラリンピックについて知る。
 - ② バンクーバーパラリンピックアイスレッジの映像を見たり、銀メダルを触ったりしながら、銀メダルを取るまでのエピソードを聞く。
 - ③ 障害のある人もない人も一緒にスポーツを楽しむことができること、夢をもつことの大切さなどについて知る。
 - ④ 質疑応答をする。
 - ⑤ お礼に合唱と言葉を贈る。



4 成果

- (1) 子どもたちは、障害のある人もない人も、ルールや道具等を工夫したり、互いを思いやったりすることで同じスポーツを楽しむことができること、夢に向かって努力することが大切なことなどに気付くことができた。
- (2) パラリンピックの競技について話を聞いたり、銀メダルに触ったりすることで、パラリンピックについて親しみが増し、すすんで応援しようという意欲が高まった。

5 課題

年間指導計画に位置付け、「体育・健康教育授業地区公開講座のお知らせ」「学校だより」「PTA常任委員会」「PTA常任委員会だより」で、体育・健康教育授業地区公開講座の参加を呼び掛けた。

アスリートの講師は、土曜日に都合が付かないことが多いので体育・健康教育授業地区公開講座の実施日設定が難しい。

体育・健康教育授業地区公開講座（大森第一小学校）

1 目的

- PTA バレーボールチームの保護者の動きを見たり、話を聞いたりして生涯にわたって、運動やスポーツに親しむ心情を育む。
- 実技を通してながらバレーボールの楽しさに気づき、運動のもつ特性に気付く。

2 実施日 令和2年2月20日（木）

3 内容

PTA バレーボールチームによるデモンストレーション、講話
児童が参加して体験型学習

- ①校長先生の挨拶
- ②PTA バレーチーム紹介
- ③PTA バレーチームの保護者によるデモンストレーション
・対人パス ・チャンスボールからスパイク
- ④児童が参加しての実技演習
・5人1グループでアンダーハンドパス・オーバーハンドパス
・助走スパイク
- ⑤講話
- ⑥質疑応答

4 成果

- (1) 児童が実際にネットやボールを使って運動することでバレーボールの運動特性を楽しく学ぶことができた。
- (2) 児童に最も身近で生涯スポーツを実践している PTA バレーボールチームの保護者に協力を頂いたことで、公開講座の趣旨に即した内容となり、活動も充実した。
- (3) PTA バレーボールチームと連携した教育実践となり、来年度以降の内容の充実、規模拡大がのぞめる。
- (4) 児童のバレーボールへの関心が高まり、生涯に亘って運動に親しむことへの意義について考えるきっかけとなった。

5 課題

- (1) 事前の周知が十分でなかったため、公開に参加する保護者が少なかった。来年度実施の際は、全学年の学年だよりや学校 HP を活用し、幅広く周知していく。
- (2) 公開講座の開催にあたり、対象学年に「生涯スポーツ」に関する事前指導が十分でなかった。活動は充実していたため、教職員によるはたらきかけを工夫することで、より大きな効果が期待される。



体育・健康教育授業地区公開講座（開桜小学校）

1 目的 学校教育目標の一つ「規則正しい生活をし、進んで体をきたえる子」に基づき、体育・健康教育の取組を広く保護者・地域の方々に公開することにより、健全な心身を育むことの大切さや今後の在り方を共に考える機会とする。

2 実施日 令和2年1月24日（金）

3 内容

- (1) 第1校時 3年1組 体育授業公開
- (2) 第2校時 2、3年生児童及び保護者・地域の方対象（講演及び意見交換会）
講演「スポーツが上手くなる、頭の回転が早くなる～まほうのすわりかた～」
講師：渋川整骨院 渋川光一先生
- (3) 中休み 外遊びの様子を公開
- (4) 第3校時 4、5年生児童及び保護者・地域の方対象（講演及び意見交換会）
講演「集中力を高める姿勢、体幹が安定する姿勢
～一生の宝『姿勢体力』の作り方～」
講師：渋川整骨院 渋川光一先生
- (5) 第4校時 1年1、2、4組 体育授業公開
4年3組 体育（保健領域）授業公開
- (6) 第5校時 運動系クラブ活動4クラブを含むクラブ活動公開（4～6年）

4 成果

- (1) 講演会では、実際に椅子を使ってすわりかたの指導をしていただいた。正しい姿勢が体や頭にどのような影響があるのか、正しい姿勢を保つポイントなど、学年の発達段階に応じて内容を工夫され、児童に分かりやすく教えていただいた。
- (2) 体育授業の公開では、本年度本校で実施しているコーディネーショントレーニングを含めた授業の様子を保護者や地域の方々に参観していただいた。児童の実態を参観していただいたことで、個々の能力や課題を知ってもらう良い機会となった。



5 課題

- (1) 講演会の対象は2～5年生であったため、全学年での実施が出来なかった。姿勢については全学年の共通課題であるため、可能であれば全学年で実施したい。
- (2) 保護者等への事前の周知をさらに工夫することで参加者を増やし、より大勢の方に本校の実態や取り組みを知ってもらえると良いと感じた。

体育・健康教育授業地区公開講座（大森第三小学校）

1 目的 学校においてアスリート経験者でスポーツ選手育成に携わる方との直接ふれあう体験を通して、体力やスポーツ等への関心を高めるとともに、「障害者理解」「ボランティアマインド」など、自ら未来を拓く力の育成を図る。

2 実施日 令和2年1月11日（土） 学校公開に合わせ、一部、体育・健康教育授業地区公開講座（オリパラ教育）を実施した。



3 内容

- ・車椅子バスケットボール「埼玉ライオンズ」に所属するコーチと選手による出前授業を行う。
- ・車椅子バスケの体験により車椅子バスケへの興味・関心をもち、競技の面白さ・楽しさを味わう。
- ・障害者スポーツに対する理解を深める。

(1) 第2校時 《体験会・デモンストレーション》
全校児童対象

- ・車椅子バスケットボールのルール説明
- ・デモンストレーションゲーム（教員・4～6年児童）

(2) 第3校時 《講演会》4・5・6年児童対象

- ・障害の話について
- ・車椅子バスケットボール競技と東京パラリンピックについて
- ・質疑応答



4 成果

- (1) ほとんどの児童が、目の前で車椅子バスケットボールを見るのは初めてであったため、選手が自由に競技用車椅子を扱い、さらにボールを扱ってゴールにシュートする姿に感激していた。障害に合ったルールが工夫され、そのために必要な体力、技術の高さにも驚きを感じていた。
- (2) 日常生活で使用する車椅子と競技で使用する車椅子との違いについて、児童の関心が高く、特に日常生活における大変さについて、また様々な工夫がされていること等、今後自分たちも工夫をしていかなければならないことを知ることができた。

5 課題

今年の夏に迫ってきた2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、大会の楽しみ方や自分たちの関わり方を、より具体的に考えさせるために、学習計画・学習方法を準備し実施していきたい。

体育・健康教育授業地区公開講座（大森第五小学校）

1 目的

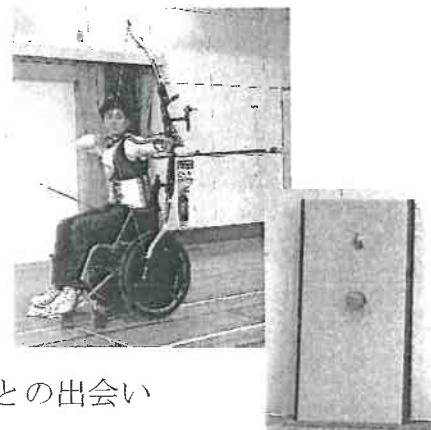
- ・児童に「夢、目標の大切さ」を伝えるため。
- ・運動をすることの楽しさ、体力づくりのおもしろさを伝えるため。

2 実施日 令和2年2月14日（金）



3 内容

- (1) 第1校時 第1学年 ボールけり運動
- (2) 第2校時 特別支援学級 ボールけりを楽しもう
- (3) 中休み 外遊びの様子を公開
- (4) 第3校時 パラオリンピック東京大会代表内定選手
上山友裕さんによる講演及び実技の披露
- (5) 第4校時 講演の続き及び意見交換会



- ア 車椅子生活になったきっかけとパラアーチェリーとの出会い
- イ 「夢」と「目標」の違い
- ウ 今の自分の夢～パラリンピック東京大会～

4 成果

- (1) 本校の体育授業の様子を多くの方にご覧いただくことができた。特に、特別支援学級の体育授業を通常級の保護者が見る機会は少ないため、特別支援教育の一端を理解していただくよい機会となった。
- (2) 通常級と特別支援学級の授業を公開したが、時期的に同じ領域の授業であった。両者の学習内容の共通点と支援などの相違点を公開することができ、併設校が複数の教育課程を組んで教育活動を実施していることを示すことができた。
- (3) 事前の打ち合わせが功を奏し、講師には本講座の意義と講演のテーマを的確に理解していただくことができた。「夢」と「目標」を区別して話していただけたことで、児童は理解しやすかった。
- (4) 講師の前向きな姿勢が共感を呼び、休憩中には児童が選手を取り囲んでそれぞれ質問していた。個々の思いに応えていただくことができた。



5 課題

- (1) 学校と講師との都合がなかなか合わず平日開催となり、保護者の出席が少なかった。大勢の方の参加を呼びかけるために学校ホームページで今回の様子を伝えていくことで、来年度の出席者数を伸ばしていくことが課題である。



体育・健康教育授業地区公開講座（大森東小学校）

1 目的 保護者や地域住民が体育科・健康教育に関する授業を参観するとともに、児童の体力向上への意識啓発を図り、学校・家庭・地域の取組を推進する。

2 実施日 令和2年2月8日（土）

3 内容

(1) 第1校時 公開授業（3、4年生）

3年	食育 手作り海苔のお味は？ 3-1教室・一倉	自分たちの手で作ったのりを食べます。1枚の海苔を味わいながら、もう1枚の海苔を家庭でどのように食べるかを考えていきます。
4年	食育 学ぼう！日本と世界の食べ物 4-1教室・高久	食べ物の旬、行事食、他の国から輸入している食べ物など、食べ物のことをいろいろ知り、食べ物大切さを考えていきます。

(2) 第2校時 公開授業（1、5年生）

1年	オリパラ教育 オリンピックを知ろう 1-1教室・尾島	今年開催される東京オリンピックについて考え、映像資料からオリンピック・パラリンピックについて理解を深めます。
5年	オリパラ教育 東京オリンピックを比較してみると？ 5-1教室・松橋	同じ東京で行われるオリンピックでも、1964年のときとはずいぶんと様子や競技内容、開会式、聖火リレーなど、変わっています。資料から変化を読み取り、自分の考えをまとめ、対話的な学習を通して理解を深めます。

(3) 第3校時 公開授業（2、6年生）

2年	オリパラ教育 オリンピック競技を知ろう 2-1教室・吉田	いよいよ東京オリンピックが近付いてきました。1年生の時には、オリンピックについて知りました。2年生では、どんな競技があるのかピクトグラムを使って学びます。
6年	保健 飲酒の害 6-1教室・村上	飲酒にはどのような害があるのでしょうか。未成年の飲酒が法律で禁止されている理由を知るとともに、勧められた時の対応を考えます。

体育・健康教育授業地区公開講座（入新井第五小学校）

1 目的

保護者・地域の方々に、体育・健康教育に関する講演会や授業を公開することを通して、体力に関する理解を深め、体力向上の意識を啓発し、家庭や地域ぐるみでの体力向上の取組を推進する。

2 実施日 令和元年 10 月 18 日（金）

3 内容

(1) 第2校時 講演会 9:20～10:20

講師 外山 英明さん

元プロバスケットボーラー

熊谷組・大和証券・アイシンホースで活躍、リーグ戦優勝4回、天皇杯優勝5回 MVP、優秀選手、年間ベスト5を獲得 西ドイツユニバーシアード出場、北京アジア大会出場、東アジア大会出場

対象 4～6年生

(2) 第3校時 授業公開 5年生 実技指導

(3) 第4校時 授業公開 6年生 実技指導

(4) 給食 6年2組会食



4 成果

(1) 講演では、「トップアスリートに聴く」というテーマで、事前に児童から質問を受けて、答えるというようなトークショー形式で行った。バスケットをやるきっかけや、苦労したこと、乗り越えたことを語ってもらった。「厳しいことでも、楽しいことを見つける。また、指導者になって、決して怒らないことや、選手に楽しんで練習してもらえるようなスタンスに変わっていった。」など、児童が疑問に思ったことを、体験を交えながら教えていただいた。

(2) 実技指導では、コーディネーショントレーニングを中心とした、ボールの動かし方や相手の取りやすい場所を考えたパス練習で児童たちの運動量が多い活動であった。



5 課題

雨のために、校庭で行う予定であったが、急遽体育館で実技指導を行うことになった。本校の体育館は狭いので、1学年が集まって活動する場所としてはやや狭かった。

体育・健康教育授業地区公開講座（入新井第一小学校）

1 目的

- (1) 本校の授業改善及び体力向上の取組を紹介し、公開授業を実施することにより、学校・家庭・地域が協働して児童の健康教育を推進していく意識を高める。
- (2) 子どもの心身の健康の意識を高めるため、本校カウンセラー 太田 真紀 先生の講演を通して、「子どもの心の捉え方について」について学びながら家庭・地域とともに、児童理解について理解を深める。

2 実施日 令和2年1月30日（木）

*講演は2月1日（土）に実施

3 内容

- (1) 第1校時 なわとび（3年）
- (2) 第2校時 元気モリモリ野菜パワー（1年）
- (3) 第3校時 跳び箱遊び（2年）ソフトボール（6年）
- (4) 第4校時 キャッチバレーボール（4年）けがの防止（5年）
- (5) 第4校時（講演は2月1日実施）
 - ア 講演 「子どもの心の捉え方」
講師 入新井第一小学校スクールカウンセラー 太田 真紀 先生
 - イ 質疑応答・意見交換会
- (6) 第5校時 まいにちの生活とけんこう（3年）
ボール蹴り運動（五組）

4 成果

- (1) 体力向上の取組に対する授業を通して参観いただくことで、普段の体育・健康教育への取り組みの理解が深まり、協働して児童の体力向上や健康増進に取り組む重要性を保護者・地域に発信することができた。
- (2) 本校スクールカウンセラー 太田 真紀 先生の「子どもの心の捉え方について」の講演を通して、カウンセラーの役割や、各家庭で自分の子どもとどのような視点で話をすればよいのかを考察することができた。

5 課題

- (1) 今後も引き続き保護者や地域と連携を図りながら取り組んでいかなければならない。アンケートで授業内容を早めに知らせてほしいという要望があった。なるべく事前に内容を伝えていきたい。
- (2) アンケート結果より今回の講演会は大変に好評であったが、主に低学年の参加がほとんどであった。高学年につれて、参加意欲が薄れてしまうようである。参加人数をさらに増やしていく工夫が必要である。

体育・健康教育授業地区公開講座（山王小学校）

- 1 目的 「集中力を高める姿勢」「体幹が安定する姿勢」を学ぶことで、一生の宝である「姿勢体力」を身に付ける。
- 2 実施日 令和2年2月8日（土）
- 3 内容
 - (1) 第3校時 1～3年生
「スポーツがうまくなる あたまのかいてんがはやくなる～まほうのすわりかた～」というテーマで、実際にすわりかたの指導を受けながら講話を聞いた。
 - (2) 意見交換会
低学年と高学年の入れ替えの時間を利用して、約20分間の意見交換会を行った。子どもの姿勢の実態、姿勢と学力や集中力と関係、健康との関係など、多岐にわたる質問や意見が出され有意義であった。
 - (3) 第4校時 4～6年生
『集中力を高める姿勢』『体幹が安定する姿勢』～一生の宝「姿勢体力」の作り方～というテーマで、実際に自分の姿勢を確かめる実技を通して講話を聞いた。
- 4 成果
 - (1) 児童にとって、運動について話を聞くことはこれまでもあったが日常の「姿勢」についての話を聞く機会は少なく、「姿勢」について、大変興味・関心をもつことができた。
 - (2) 姿勢と集中力や運動能力と大きく関係していることを知り、日々の授業中の姿勢に気を付けることができるきっかけを作ることができた。担任からの「魔法の座り方」という声掛けで、意識して姿勢を直す児童が増えた。
 - (3) 保護者と伴に講話を聞くことで、帰宅後に家庭内で姿勢についての会話ができ、家庭生活でも姿勢を意識した生活が行えるようになることが期待される。
 - (4) 保護者の姿勢に対する意識を変えることができ、保護者自身の健康への取組として捉えるように変化することが期待される。
- 5 課題
 - (1) 学習したことを、継続して意識して生活できるよう学校や家庭での声掛けが必要である。
 - (2) 今回は座る姿勢についての講話であったが、今後、起立姿勢やその他の多様な姿勢について知る機会をもつことが必要である。

体育・健康教育授業地区公開講座（馬込小学校）

- 1 目的 パラリンピックスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさを知る。
パラリンピアンの方の生き方を知ること、自分の生き方をよりよいものにする。

- 2 実施日 令和元年10月21日（月）

3 内容

- (1) 第2校時 講演及び車椅子バスケット体験

ア 車椅子バスケットボールの紹介

イ 車椅子バスケットボール体験

5年→6年→教員チーム

- (2) 第3校時 講演及び意見交換会

ア 幼少期から事故にあうまでは、スポーツが好きな少年だった。

イ 高校3年の時、交通事故にあい、半身不随になり毎日泣いてばかりの日々だったが、友達が誘ってくれた車椅子バスケットとの出会い、そして新しい友達との出会いが人生を豊かにしてくれた。

ウ 苦手なことでもまずは、やってみる。何事にもチャレンジすることの素晴らしさ

エ 障害は「障害者」と呼ばれる人にあるのではなく社会にある。



4 成果

- (1) 車椅子バスケットボールを体験したり、応援したりすることで、競技の楽しさを味わうことができた。

- (2) スポーツ交流を通して、パラリンピックの競技への関心を高めることができた。

- (3) 講演・体験を通して、多様性を尊重し、障害を理解する心のバリアフリーについて、理解を深めることができた。

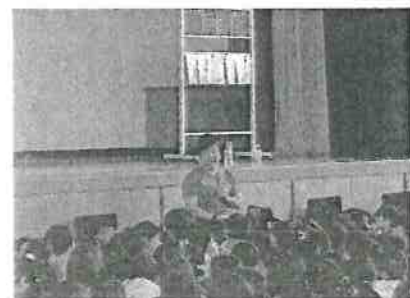
- (4) 「障害は、『障害者』と呼ばれる人にあるのではなく、社会にある。その社会の障害をなくしてくれるのも人（友達）である。」との話を受け、人とのかかわり方、友達について考えることができた。



5 課題

- (1) 保護者の参観が少なかったため、学校公開にあてるなど、日程調整をしていく必要がある。

- (2) 時間の関係で、車椅子バスケットボールを体験する児童は限られてしまう。しかし、応援で参加できる体制はよかった。



(4) 第1～3校時 ボッチャ体験会 (全学年)

児童がボッチャを体験した。白色のジャックボールに、色玉をどれだけ近づけられるかを競った。児童は、玉の重さに驚いたり、投げたり転がしたりしたときの感覚を楽しんだりした。

パラリンピックが体の不自由な人が参加するためのオリンピックであることを聞き、パラリンピックやパラスポーツについての理解も深めた。体験が終わるころにはボッチャの審判を体験する児童や、簡単な作戦を立ててボールを狙う児童もいた。縦割りのグループで取り組んだことで、上学年から下学年への教え合いも生まれ、会場は活気に溢れた。



4 成果

パラリンピックやボッチャは、児童にとっては身近でない。ほとんどの児童が初めてボッチャに触れたことから、今回の経験は大変貴重であった。児童からは「初めてやった」「とても面白かった」「もっとやりたかった」という感想が出てきた。児童が知らなかったスポーツに出合い、親しもうとする心情を抱いたことは大きな成果といえる。今回の体験が、ボッチャや他のパラリンピックを観戦するきっかけとなってほしい。



5 課題

ボッチャを体験できたことは大変有意義であった。パラリンピックやパラリンピックスポーツに触れることが一過性のものにならないよう、本校でできる取り組みを考えていくことが、今後も課題である。



体育・健康教育授業地区公開講座（馬込第二小学校）

1 目的 日々の体育・健康教育の授業の様子を保護者、地域に公開する。生涯スポーツを育むため、親子で体力テストに取り組む。

2 実施日 令和元年6月8日（土）

3 内容

(1) 第1校時 体育科授業公開

体育館・・・3年生「みんなで楽しもう3-2ランド」

校庭・・・4年生「体力をつけよう」

(2) 第2校時 体育科授業公開

体育館・・・3年生「みんなで楽しもう3-2ランド」

校庭・・・1年生「体ほぐしのうんどう」

(3) 第3校時 体育科授業公開

体育館・・・若竹学級「親子でボール運動」

校庭・・・5年生「ティーボール」

教室・・・5年生 保健「けがの発生」

4 成果

(1) 体育科の授業を公開することで地域・保護者に対して、日々の体育学習の様子を伝えることができた。

(2) 親子で体育を行うことで、児童の体力の実態を地域・保護者が感じる事ができた。また、保護者が体育に取り組む姿を児童が見ることで、和やかな雰囲気の中、体を動かすことができた。



5 課題

個々の児童や全体の傾向等、今の児童の体力の実態やこれからの体育学習について、さらに地域・保護者に伝えていく必要がある。

体育・健康教育授業地区公開講座（馬込第三小学校）

1 目的

ウォーキングサッカーを楽しみながら体験する。体験を通して、運動への関心を高め、生涯にわたり楽しみながらスポーツに取り組もうとする気持ちを高めさせる。児童の体力向上やスポーツの振興など、自ら未来を拓く力の育成を図る。

2 実施日

令和2年2月5日（水）4校時

令和2年2月8日（土）1～3校時

3 内容

2月5日（水）4校時

生涯スポーツを楽しむオリエンテーション
（ルール説明等）

2月8日（土）クラスごとに体験学習

（1）第1校時 1組体験 （2）第2校時 2組体験

（3）第3校時 3組体験

ア 学年オリエンテーションでは、ウォーキングサッカーの内容やルール、運動を楽しむポイントなどについて児童の意見を取り上げながら講演して下さった。

イ 体験学習では、クラスごとにチーム戦を行った。審判に入りながら、児童が安全に体験できるように見守ってくれたり、児童に助言をしてくれたりして指導をして下さった。



4 成果

- （1）専門の方々による講演や体験談を聞くことで、児童の意欲が高められた。
- （2）休み時間に、ウォーキングおにごっこをする児童が出てきて、活動を工夫する様子が見られるなど、ウォーキングサッカーに関心をもった児童や関心を高めた児童が見られた。
- （3）保護者からは、公開授業で普段の体育以外の活動を見ることができ、貴重な経験になったという意見が多くあった。また、誰もが安全で気軽に楽しめる点がよいとの意見が多かった。保護者へは、運動に取り組むよさを啓発できた。

5 課題

クラスごとの体験時間がもう少しとれるとよかった。また、講師による実演があると、実際にどのように動いたらよいか児童に分かりやすかった。時間的な制約があり厳しいところもあった。

体育・健康教育授業地区公開講座（梅田小学校）

1 目的 心と体に関する理解を深め、運動することの大切さや健康についての意識の向上を目指し、学校・家庭・地域で体力向上を推進する。

2 実施日 令和元年12月14日（土）

3 内容

第1校時 体育授業公開・がん教育（東邦大学医療センター大森病院 梶木直文准 教授）

第2校時 体育授業公開・がん教育（東邦大学医療センター大森病院 梶木直文准 教授）

第3校時 体育授業公開

第4校時 講演会及び意見交換会

ア 本校の体育研究について

イ 講演会 講師 大田区教育委員会 統括指導主事 志賀克哉

演題 「遊びと運動・スポーツの大切さについて おおた教育ビジョンを通して考える」

ウ 意見交換

4 成果

(1) 年間9回、45分間のロング昼休みを行った。また各クラス10回のハッピータイム（体育的活動）も設けた。20分休みには5分間ランニングを全校で実施（2学期）して、日常的に運動ができる機会を設け、児童は自己の課題に挑戦しながら運動することを楽しむことができた。

(2) 学んだことを書いたり話したりすることを大切にするために体育ノート充実を図った。体育ノートには、体育学習カードや資料を整理してまとめることで、体力の伸びを実感する児童も多くいた。

(3) 三間（時間、空間、仲間）の減少対策の一つとして児童が休み時間に使用できるボールの種類や数を増やした。体育の時間に学んだゲームの型を発展させて遊ぶ児童が増えた。

5 課題

小学校入学時から体力テストの区平均値を上回っている児童の体力をさらに伸ばしていくことや、得意な運動は意欲的にするが、苦手な運動には取り組まない児童への支援の工夫は、今後も継続していく必要がある。



体育・健康教育授業地区公開講座（池上小学校）

- 1 目的 ○ 課題意識を明確にした指導を実践し、児童一人一人の体力・技能の向上を目指す。
- オリンピック・パラリンピックに向け、楽しみながら運動に親しむためには、今の子どもたちにどのような運動、環境が必要かを学ぶ。
- 実際にリズムにのって体を動かしながら、運動量を増やす方法を学ぶ。

2 実施日 令和元年10月26日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 1年、4年、5年 体育 保健
- (2) 第2校時 4年、6年、五組 体育 保健
- (3) 第3校時 実演及び実技指導
「ストレッチ、遊び要素を取り入れたトレーニングの方法」
講師 E.S.D.Cダンス 田島 慎介 先生
- (4) 第4校時 2年、3年、6年 体育 保健 食育
5年、5組 体育 講師による実技指導

4 成果

- (1) 体育の実技指導の公開だけでなく、保健、食育の分野でも授業公開することにより、児童の体力向上、健康の保持増進に保護者の関心、理解が高まった。
- (2) 実演を通してダンスに必要な柔軟性や体幹の強さ、調整力等の必要性について理解を深められた。また、実技指導ではストレッチと遊びの要素を取り入れたリズム運動やトレーニングの方法について、わかりやすく教えていただいた。実演を見ながらイメージするだけでなく、実際に体を動かすことで、楽しみながら運動したり、トレーニングに結び付けたりすることができた。
- (3) 準備運動や表現運動に改善を加えたり、児童が楽しみながら運動に親しむ活動を取り入れたりしたことで、積極的に発表したり、達成感を得られたりする児童が増えてきた。



5 課題

- (1) より効果をあげるためには体育の授業だけでなく、行間体育や児童集会等にも取り入れる必要がある。継続的に指導できるよう、検討する。
- (2) 保護者にも保健や食育の大切さを啓発する機会を設定する。

体育・健康教育授業地区公開講座（池上第二小学校）

1 目的 学校公開（10月18日（金）～19日（土））の中で体育・保健・食育の授業を実施し、学校での取組を保護者・地域に知ってもらう。

2 実施日 令和元年10月18日（金）

3 内容

○第5校時 校庭 ボール運動「バスケットボール」（第6学年）

体育館 跳の運動遊び「とびっこランドを楽しもう」（第2学年）

○第6校時 講演及び意見交換会

- ・神経型は10歳の時点で、20歳同じ発達をする。つまり、10歳までの経験が重要である。
- ・多様な動き（36種類）を学ぶことができる。これは、幼少期に身に付けたい。
- ・大人が安全確保し、見守りながら体験させることが重要である。
- ・スポーツ・外遊びに不可欠な（サンマ）の減少（・時間の減少 ・空間の減少 ・仲間の減少）
- ・池二小の研究…誰にとっても分かりやすい授業（視覚化・共有化・焦点化・構造化）

4 成果

(1) 授業の前にチームの作戦を確認しあい、それぞれの役割を確かめていた。技能面に苦手意識のある児童も自信をもって参加できるルールもあり、グループの参加意識は高かった。チームでの振り返りタイムでは、思春期に差しかかる時期であるにも関わらず、男子と女子が声を掛け合い、作戦を話し合っている姿は素晴らしいものだった。



(2) いろいろな跳の運動ができるよう場の設定をし、さらに、動きの難易度をあげるために道具を工夫して楽しむことができていた。苦手な児童も得意な児童も一緒に楽しめるように工夫されたメリーゴーランドは選べる仕掛けがあるのが良い。振り返りの中で友達の工夫や上手なところを称賛していた。



5 課題

(1) 体育が苦手であるという児童がいたら、その児童の抱えているつまずきを把握して授業の場やゲームのルールを工夫する必要がある。

(2) 運動遊びを運動につなげるための系統性を教える側が、きちんと理解することが大切である。

体育・健康教育授業地区公開講座（徳持小学校）

1 目的

パラアスリート講演会と体験授業公開を通して、体育学習における体力向上とオリパラ教育への本校の取り組みについて啓発活動を行う。

2 実施日

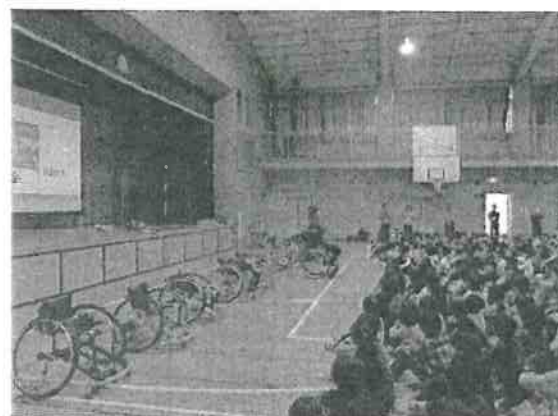
令和元年 11月 19日（火）

3 内容

- (1) 第1校時 【オリパラ教育講演会・意見交流会】
講師：篠田 匡世（車椅子バスケットボール選手）
講演テーマ：「チャレンジ精神」

- (2) 第2～4校時 【公開授業】
「車椅子バスケットボール」

授業者 6年1組 菅野 洋 主任教諭
6年2組 小俣 梨江 教諭
6年3組 早川 大介 教諭

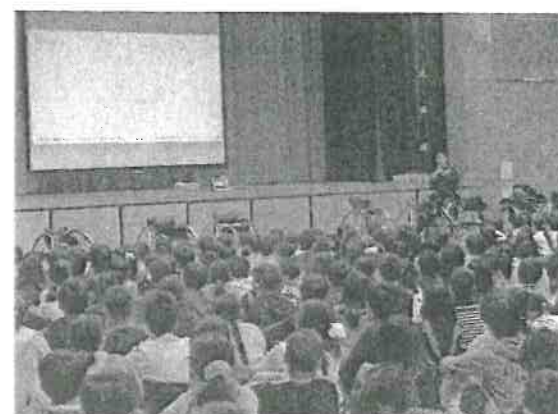


4 成果

- ◎ オリパラ教育への取組、そして体育科で目指していることについて、児童や保護者に伝えることができた。
- ◎ 体育・健康教育が目指すものは、生涯スポーツであることを再確認することができた。
- ◎ 講演会では、体育科の見方・考え方である「する・見る・支える・知る」が含まれ、スポーツは、するだけでなく、見る、支える、知るという魅力もあることを理解することができた。

5 課題

1ヶ月前から全校の保護者に呼びかけて講演会を実施した。来年度は、ホームページ等を活用してより多くの保護者や地域の方に情報発信し、参加を促したい。



体育・健康教育授業地区公開講座（入新井第二小学校）

1 目的 体育・健康講座を通して生涯にわたって運動や健康に親しむ。

2 実施日 令和元年9月6日（金）

3 内容

(1) 1年生 食育『しっかりたべよう あさごはん』

講師：本校栄養士

(2) 2年生 姿勢教育

『スポーツがうまくなる 頭の回転がはやくなる～まほうのすわりかた～』

講師：渋川整骨院院長 姿勢教育士 渋川 光一 氏

(3) 3・4年生 体育『高跳び・幅跳び』

講師：日本女子体育大学 スポーツ科学助手4名

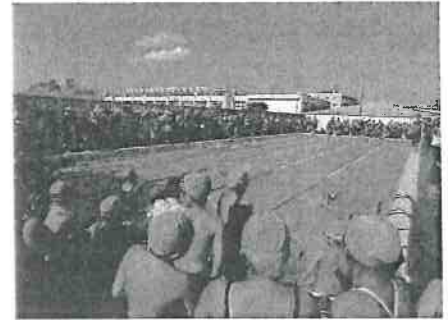
(4) 5年生 姿勢教育

『集中力を高める姿勢・体幹が安定する姿勢 ～一生の宝「姿勢体力」の作り方』

講師：渋川整骨院院長 姿勢教育士 渋川 光一 氏

(5) 5・6年生 体育『水泳記録会』

(6) 第2・3校時終了後 保護者と姿勢教育士の渋川先生と意見交換会



4 成果

(1) 1年生『食育』

朝食の大切さを4つのスイッチ（頭・心・力・お腹）という観点から指導し、エプロンシアターを行ったことで児童は興味をもって学習することができた。

(2) 3・4年生『高跳び・幅跳び』

実際に競技を行っているアスリートが説明や模範をしてくれたため、児童は興味をもって話を聴いたり、体験したりすることができた。

(3) 2・5年生『姿勢教育』

講師の先生が児童の興味をもつような話し方で進めてくださったので、よく話が聴けていた。また、今回の講話をきっかけに姿勢を意識し、姿勢の良い児童が増えた。

5 課題

(1) 「食育」で学習した朝食について、ほとんどの家庭では朝食を摂られているという実態があったため、今後は実態に応じた授業内容を検討していきたい。

(2) 「高跳び・幅跳び」では、体験する場が少なかった。今後は学年ではなく、クラスごとにできるとさらによい。

(3) 「姿勢教育（5年生）」では、まだ暑い季節だった。次回行う時期を考えた方がよい。

体育・健康教育授業地区公開講座（入新井第四小学校）

1 目的

- ・ 良い姿勢で生活することは心身の健康につながっていることや、自己表現や生き方にもつながることを知る。（児童）
- ・ 正しい姿勢で生活することは心身の成長と健康に不可欠であることに気付き、子どもが好ましい姿勢で生活が送れるように指導する実践的な態度を育てる。（保護者）

2 実施日 令和2年1月11日（土）

3 内容

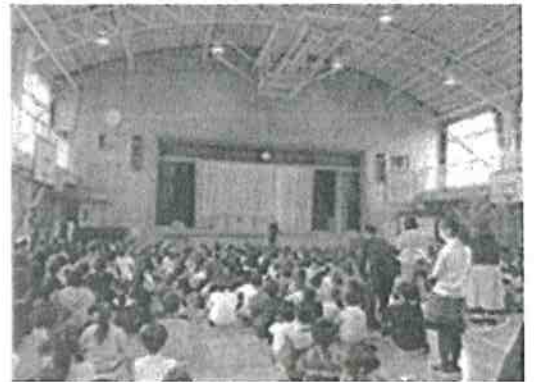
第1校時 8：35～9：20

1～6年生 保護者向け講座

テーマ：「よい姿勢でスマイル大作戦」

〈講師〉

鈴木 北斗 氏（箱根駅伝出場経験あり）



4 成果

- （1）姿勢が悪いと血流が悪くなり、内臓の働きが悪くなったり、代謝が悪くなって太りやすくなったり、疲れやすくなったりするなどの悪影響があるということについて学ぶことができた。
- （2）姿勢と心のつながりについてもお話いただき、自信がなくても姿勢を正すことで、チャレンジする勇気が湧いてくることや姿勢によって人に与える印象がかわってくることなど、姿勢が自己表現につながっていることも教えていただいた。
- （3）よい姿勢を保つための簡単なトレーニングについて教えていただき、実際に体験することができた。



5 課題

テーマや内容にあった講師の確保が難しい。

体育・健康教育授業地区公開講座（東調布第一小学校）

1 目的

学校目標の一つ、『いつも元気で丈夫な子』の育成のために、日頃取り組んでいる体育の学習内容を保護者・地域に公開するとともに、世界で活躍したスポーツ選手をお招きして努力することの大切さや高度な技能などを学ぶ機会とする。

2 実施日

令和元年10月10日（木）

3 内容

（1）第1校時 全校集会

バルセロナオリンピック陸上競技日本代表の渡辺高博さんを講師にお招きし、自身の夢に向かって努力したことや困難を克服した時の気持ちなどを学んだ。

また、上手な走り方について、どの学年の児童にも分かりやすく解説していただいた。

（2）第2校時 実技指導（6年2組）

（3）第3校時 実技指導（6年1組）

（4）第4校時 実技指導（6年3組）

- ・ウォーミングアップ
- ・走る姿勢の指導
- ・腕の振り、足の動きの指導
- ・リレーの指導（バトンの受け渡し、コーナーの走り方）

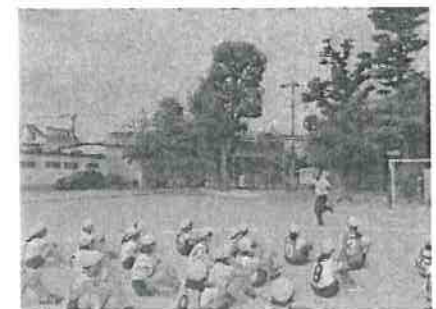
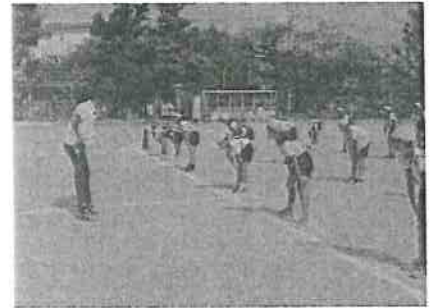
4 成果

（1）オリンピックに出場した方を目の前にして児童の真剣に話を聞く姿がみられ、児童の興味・関心の高まりを感じた。苦しくても努力することの大切さなど、今後の児童に影響力のあるお話が聞けた。

（2）6年生児童に大変丁寧な走り方教室を行っていただいた。走るときに必要な姿勢や手の振りなど基本的なことを理解することができた。また、学んだことを生かして実際にリレーを行うことができたので、児童も満足している様子だった。

5 課題

児童だけでなく、指導する教員にとっても指導法を学ぶよい機会となっているため、今後も様々なアスリートをお招きしてご指導いただきたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（田園調布小学校）

1 目的 自分の体（足）の状態を知り、関心をもつ。

2 実施日 令和元年5月11日（土）

3 内容

(1) 第2校時 「健康わくわくランド」 6年生

ア 足の運動を行うよさについて知る。

イ 裸足になり、足の運動ができる6つのコーナーをまわる。

ウ 振り返りをし、これからの自分について考える。

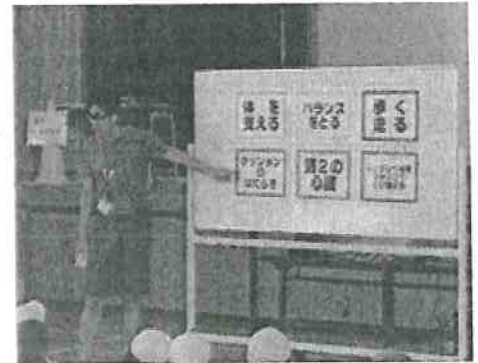
(2) 第3校時 「健康わくわくランド」 5年生

ア 足の運動を行うよさについて知る。

イ 裸足になり、足の運動ができる6つのコーナーをまわる。

ウ 振り返りをし、これからの自分について考える。

* 各コーナーの運営は、保健委員会の児童が担当する。



4 成果

(1) いつも使っていないところを動かす活動に取り組みさせることで、運動に関心をもたせることができた。また、これから意識したいことなどを児童から引き出すことができた。

(2) ゲーム性をもたせることで、楽しみながら運動に親しませることができた。

(3) 簡単な運動でも体が温まる感覚があることに気付く児童もいた。

(4) プロジェクターや掲示資料で足の運動のよさのポイントを絞って説明することで、児童の意欲付けを図ることができた。

(5) 5・6年生の活動を保護者も一緒に体験することで、運動の楽しさを実感し、健康についての理解を深めることができ、好評だった。



5 課題

関心をもたせる機会となったが、今後、運動を継続させていくことに課題を感じる。

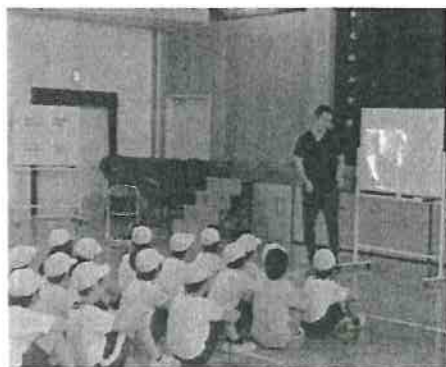
体育・健康教育授業地区公開講座（調布大塚小学校）

1 目的 授業や講演を通して児童の体力向上についての啓発を図り、学校・家庭・地域の取組を推進する

2 実施日 平成 31 年 4 月 20 日（土）

3 内容

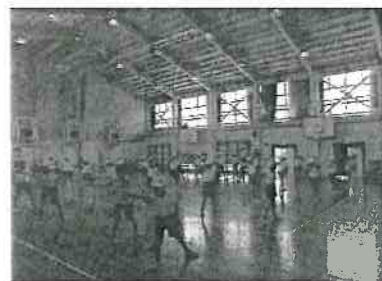
- (1) 第 1 校時 5 年 2 組 体育「体をほぐす運動」
- (2) 第 2 校時 1 年 2 組 糊齧「給食ができるまで」
- (3) 中 休 み
- (4) 第 3 校時 6 年 1 組 児童向け講演会
- (5) 第 4 校時 講演及び意見交換会



- ア 第 1 校時は第 3、4 校時の内容に繋げる公開授業を行い第 2 校時は「体づくり」の大基となる「食」について担任と栄養士がチームティ칭ングで授業を行った。
- イ 第 3 校時は授業で取り入れているラダーやストレッチ運動について講師の専門的な立場から筋肉の使い方、体の動かし方等を具体的な教授を受け実践した。
- ウ 第 4 校時の講演では第 3 校時の内容の延長として、家庭や地域で取り組める運動の紹介や保護者地域の方々の日常的な運動方法等についての質疑応答が行われた

4 成果

- (1) 学校全体で取り組んでいる「ラダー」の効果的な運動方法について理論的にも理解し、体育や休み時間に意欲的に取り組む児童の姿が見られた。
- (2) スポーツトレーナーという専門的な見地からの体の動かし方、運動の仕方を体得し、自身の授業力の向上が図れた。
- (3) 日常的な運動の仕方について様々な示唆を受けて、家庭でまた地域で体を動かすことの大切さ理解のもとに実践していこうとする意欲が意見交換会から感じられた。



5 課題

- (1) 第 3、4 校時の内容が前時の授業を受けてのものとなれば、より理解が深まり、児童、家庭、地域の方々にもより分かりやすい講座となったと思う。
- (2) 第 3 校時の児童向け講演会では、講義をしながらの実践指導だったため、6 年生としての体育 1 時間授業分の運動量確保が十分にとれなかった。

体育・健康教育授業地区公開講座（東調布第三小学校）

1 目的 地域や家庭に対して体育科の授業を公開し、本校の体力向上に向けた取組についてへの関心を高める。

保護者参加型の講座を開き、本校の校内研究を通じた授業改善について周知する。

2 実施日 令和元年 10 月 19 日（土）

3 内容

（1）第1校時 第5学年 「マット運動」

（2）第2校時 第2学年 「ボールゲーム」

第3学年 「毎日の生活と健康」

（3）第3校時 第6学年 「ボール運動 ベースボール型」

例年、講師を招いて体育・健康に関する講座を開いていたが、なかなか成果をあげることができなかった。

そこで今年度は実際に授業で行われていた、第6学年ボール運動ベースボール型のゲームに保護者にも参加をしてもらい、本校の体育学習を体験してもらうことにした。

4 成果

（1）校庭での講座としたことで、下校時に足を止めて多くの方に参観していただくことができた。昨年度3名⇒今年度約60名

（2）12名の保護者が実際に授業に参加をし、ゲームに参加をし、ベースボール型の楽しさにふれてもらうことができた。

（以下、保護者感想）

- ・野球とのルールの違いに始め、戸惑ったが、とても楽しむことができた。
- ・来年度も同じ形で講座を開いていただければ、ぜひ参加したい。

5 課題

参加者を増やすための工夫として、検討の余地がある。場が限られており、けがが懸念される場面があった。安全の確保と機会の提供を両立させる。



体育・健康教育授業地区公開講座（嶺町小学校）

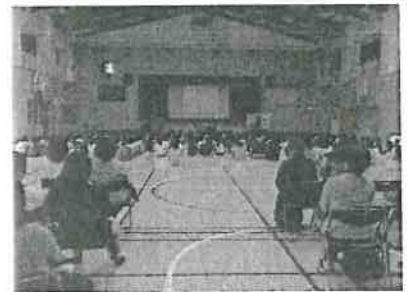
1 目的

- ・保護者や地域の方々に、体力向上についての意識を啓発し、学校外でも体力向上に取り組める環境をつくる機会にする。

2 実施日 令和元年10月11日（金）

3 内容

- (1) 第1校時 2年生授業
「走・跳の運動遊び」 いろいろな動きをしてみよう
- (2) 第2校時 5年生授業
「ボール運動」 バスケットボール
- (3) 第3校時 体育・健康教育授業地区公開講座（上学年）
「すすんで運動、しっかり食べよう！」
- (4) 第4校時 体育・健康教育授業地区公開講座（下学年）
「朝ごはんミラクルパワー」



4 成果

(1) 公開授業

体育の授業を公開し、場の工夫をしたり音楽を用いて準備運動したりするなど授業の中で体力向上に向けた取組を充実させていることを伝えられた。

(2) 体育・健康養育授業地区公開講座

下学年、上学年ともに、株式会社明治に講座を依頼した。

「朝ごはんミラクルパワー」という演目で下学年は講座を聞いた。朝ごはんを食べることが学習や一日の活動のエネルギーにつながることを学ぶことができた。

「すすんで運動、しっかり食べよう！」という演目で、上学年は講座を聞いた。どのような食事が「バランスのよい食事」なのか、「丈夫な骨にする」ために運動が大切になることなど学ぶことができた。



5 課題

体育・健康教育授業地区公開講座への地域の方や保護者の方の参加が少なかった。

体育・健康教育授業地区公開講座（千鳥小学校）

1 目的 体育健康教育にかかわるアスリートを招き、講演や実演を通して、実践者の生き方や考え方に触れ、体育健康に関する意識を深め、資質、能力を高める機会とする。

2 実施日 令和2年1月25日（土）

3 内容

(1) 第1校時 授業公開

(2) 第2校時 授業公開

(3) 中休み

(4) 第3校時 講演・実演及び意見交換会

ア 「パラリンピック」について

イ 「Overcome」乗り越えていくこと 安岡チョーク氏の体験から

ウ 「車イス」陸上競技について

4 成果

(1) アテネパラリンピック金メダリストの安岡チョーク氏をお迎えし、パラリンピックへ出場して、金メダルを獲得するまでの経緯について聞くことができた。

(2) 「車イス陸上競技」について映像資料や実演を通して学ぶことで、東京2020パラリンピックでの競技について関心をもたせることができた。

(2) 金メダリストから直接話を聞き、また、競技用の車イスに乗って走る経験をすることで、より身近に感じることができた。

(3) 東京2020オリンピック・パラリンピックについて、常に挑戦する気持ちをもつことで、様々な壁を乗り越えていくことの尊さについて学ぶことができた。

5 課題

今回の講座は、パラリンピアンを招へいし、両足のないことをものともせず、「ただ速く走る」ことを目指した安岡チョーク氏の生き方を学ぶことができた。

一方で、自分自身の今の生活を振り返って新たな目標をもつことやパラリンピックへのさらなる関心をもたせることについては、今後も体育を中心とした学習の中で、様々な経験を積む必要があると感じる。

体育・健康教育授業地区公開講座（久原小学校）

1 目的 体育及び保健の授業、講座を公開することで、保護者・地域の体力向上・健康増進についての理解を深め、学校・保護者・地域の三者による指導を行う。

2 実施日 令和2年1月25日（土）

3 内容

(1) 第1校時 「跳び箱運動」（体育）

5年4組（他学級は授業公開）

(2) 第2校時 「がんについて学ぼう」（保健授業兼講演及び意見交換会）

6年1組3組

ア 「がん」は特別な病気ではなく、ほかの病気と変わらない身近な病気であることを児童と保護者に紹介した。

イ 健康に暮らすために自分ができることを紹介した。

(3) 中休み 外遊び（健康増進・体力向上）

(4) 第3校時 「がんについて学ぼう」（保健授業兼講演及び意見交換会）

6年2組4組

(5) 第4校時 「身の回りの清潔」（保健）

3年1組（他学級は授業公開）

4 成果

(1) 「がん」は特別な病気と思われがちであるが、かぜや胃腸炎などと同じように身近な病気であること、誰もがかかる可能性があることが分かった。

(2) がんも含めて「早期発見」が有効で、そのためには健康診断をきちんと受ける必要があることが分かった。

(3) 健康な生活を維持したり増進したりするためには、「規則正しい生活」「適切な食事」「適度な運動」が重要で、これらによって自己治癒力が高められることが分かった。また、薬は、必要に応じて適切に使うと効果があることも分かった。

5 課題

「がん」が日本人の死亡原因のトップを占めるようになったものの、「がん」についての正しい知識をもっている人は少ない。

また、誰もががんになる可能性があるにもかかわらず、普通の病気ではなく特別な病気と考えている。保護者は、子どもと一緒に学ぶことで同じ話題をもち家庭で話し合うことができる。

体育・健康教育授業地区公開講座（松仙小学校）

1 目的 保護者や地域住民が体育科・健康教育に関する授業を参観し、児童の学びに向かう意欲向上や体力向上についての意識啓発を図り、学校・家庭・地域の取組を推進することを目的とする。

2 実施日 令和元年11月30日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 5年 タグラグビー
- (2) 第2校時 講演及び意見交換会
講師 フランクリン・コヴィー・ジャパン社
取締役副社長 竹村 富士徳 氏
演題 「心の健康～リーダーシップと7つの習慣を活用して」
- (3) 中休み
- (4) 第3校時 4年 跳び箱運動



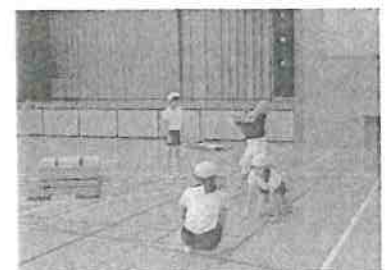
4 成果

- (1) 体育学習を公開することにより、保護者や地域などの様々な方から客観的な意見をいただくことができた。
- (2) 授業改善の一環として全クラスが学習の導入部においてホワイトボードを使い、その日のめあてや学習の流れなどを児童に示すことにより、児童が学習の見通しをもち、課題解決やめあてに取り組む意欲を伸ばすことができた。タグラグビーでは作戦カードを活用し、対話的な学びを生み出すために工夫をした。跳び箱運動では、場の設定や掲示物を工夫し、児童が自分に合った場で主体的に取り組むことができた。
- (3) 本校が、一昨日11月よりフランクリン・コヴィー・ジャパン社と提携し導入している、「リーダー・イン・ミー」の学習内容と7つの習慣について講演をいただき、実施後のアンケートでは、講演の内容について、「大変ためになった。」「家庭でも実践してみようと思う。」という感想が多く、好評であった。



5 課題

- (1) 学年間のつながりや系統性を考えた学習内容の共通理解がまだ不十分である。
- (2) 体力向上に向けた運動の日常化を進める取組や家庭との連携が不足している。



体育・健康教育授業地区公開講座（池雪小学校）

1 目的

元ラグビー日本代表選手の方のお話を直接伺うことで、運動への興味・関心を高め、諦めないで努力することの大切さを学ぶ。

2 実施日

令和2年2月18日（火）

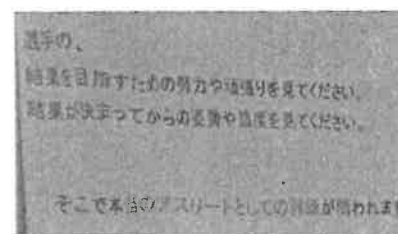
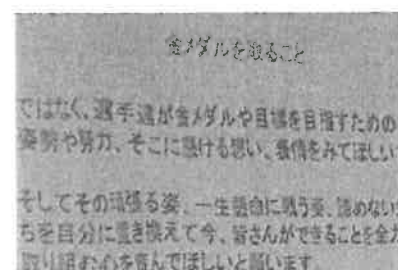
3 内容

- (1) 第2校時 低学年向けの講演・実技
- (2) 第3校時 高学年向けの講演・実技



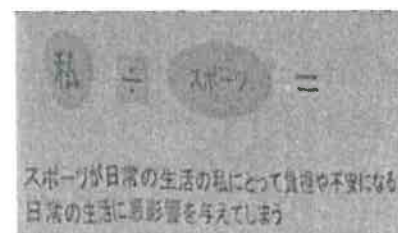
4 成果

- (1) 児童が結果だけでなく、結果を出そうとする過程の努力が大切だということを学ぶことができた。また、今できることを全力で取り組むことが大切であると教えてもらうことができた。
- (2) アスリートの評価は、結果が決まった後の姿勢や態度が大切。児童にとっても、結果が出なくてもその後の態度で自分の価値が決まっていくことを学ぶことができた。
- (3) スポーツ対して、努力することは大切だが、スポーツが日常の生活の私にとって負担になってはいけないことを学び、スポーツだけでなく、他の勉強等もきちんとやることが重要であることに気付くことができた。
- (4) 実技を通して、普段体験できない経験をすることができ、ラグビーについて興味を高めることができた。



5 課題

- (1) 保護者向けにお知らせするのが遅れてしまい、保護者の参加が少なかった。そのため、児童に興味をもってもらうためには、親にも興味をもってもらった方がいいため、早めの周知を心がける。
- (2) 今回は、実技を通してラグビーを体験できる児童が少なかった。講師の方と連携を図り、環境を整えて、体験の中での学びを増やしていけるようにしていく。また、実技ができない場合も、質問タイムを取り、児童の興味を高めるための工夫を取り入れていく。



体育・健康教育授業地区公開講座（小池小学校）

- 1 目的 運動することの大切さや健康についての意識の向上を目指し、学校・家庭・地域での体力向上を推進する。
- 2 実施日 令和元年9月7日（土）
- 3 内容
講演及び意見交換会
ア なぜ子どもにがん教育なのか
「がん」という疾患を学ぶことをとおして「健康と命の大切さを育むこと」が目的である。
イ がん以外の病気も含めて、病気にならないように予防や望ましい生活習慣の確立と健康教育の充実を図ることが大切である。
ウ 子どもにがん教育の授業をするときのポイントはどのようなところにあるか。
- 4 成果
(1) がんという疾患について、各自が自分のイメージ先行で理解している部分があったが、正しい理解に近づけた。
(2) 誰でもがんになる可能性がある、という認識のもと、自分のこととして、病気の特徴や仕組みについて話を聞くことができた。
(3) 自分にできることとして、予防の知識を学ぶことで、やみくもに「がんは怖い」と思うイメージを払拭することができた。
(4) がんについては、たくさんの情報があるが、情報に惑わされず「信頼できる情報」を選択する大切さを学ぶことができた。
(5) 保護者が興味深く話を聞き、がん教育を充実させていくサポートをしたい、という声もあった。
- 5 課題
(1) 保護者からの質問や感想が複数あった。より多くの保護者の参加になる講座にすることが課題である。

体育・健康教育授業地区公開講座（雪谷小学校）

1 目的

保護者や地域住民が体育・健康教育に関する授業を参観するとともに、児童の体力向上について、意識啓発を図り、家庭や地域ぐるみでの体力向上の取組を推進する。



授業公開の様子

2 実施日 令和元年9月21日（土） 学校公開日

3 内容

(1) 第1校時 授業公開

(2) 第2校時 授業公開

(3) 第3校時 講演会

ア 第1校時または2校時に、全学級で体育（保健も含）もしくは食育（学活等）の授業公開を行った。

イ 第3校時は、太田 智英氏（元横浜高校野球部キャッチャー）の講演会を行った。演題は「やればできる!」。本校多目的室で実施した。



講演会の様子

4 成果

(1) 公開授業では、運動会練習を中心に、体力向上や健康について家庭への意識啓発を図ることができる内容を取り入れた。保護者アンケートからは、授業内容をもとに、家庭でも話し合いの機会をもったという回答も見られ、有意義な啓発を図ることができた。

(2) 体育の授業では、低学年において、体育指導補助員を活用した授業を行った。運動や体力づくり入門期としての興味・関心を高める授業を公開することができた。

(3) 太田 智英氏からは、これまでの野球人生を通して、体力の基礎作りやあきらめないで努力することの大切さについて講話をいただいた。興味深い内容が多く、保護者や地域の方などの参加者の知見を深めることができた。

5 課題

(1) 土曜授業日に公開講座を実施したことで来校者が多く、授業公開はたくさんの方々に参観いただけたが、講演会の参加人数が30名程度だったので、さらなる啓発を図る必要がある。

(2) 子どもたちの健康な体づくりのために、体育・健康教育の在り方、及び学校・家庭・地域の連携等について、さらなる検討が必要である。

体育・健康教育授業地区公開講座（洗足池小学校）

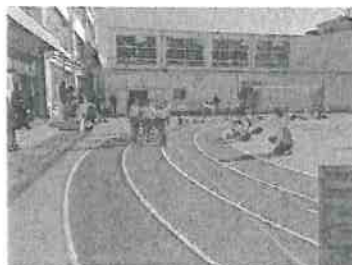
- 1 目的
- ・ 走ることへの関心・意欲を高め、持久力を向上させるとともに、運動を継続したり、「洗足池マラソン」などに挑戦したりしようとする児童の意欲を高める。
 - ・ 保護者や地域の方に体育・健康教育における学校の取組を知っていただくとともに、教職員の体育の学習指導力を向上させる。

2 実施日 令和2年2月8日（土）

3 講師 東京学芸大学教育学部健康・スポーツ科学講座 准教授 佐藤 善人 氏

4 内容

- (1) 第2校時「ランニング教室」
～自分のペースで楽しく走ろう～
第2学年・3組授業
- (2) 30分休み「持久走タイム」
- (3) 第3校時「ランニング教室」
～自分のペースで楽しく走ろう～
第5学年授業
- (4) 15:25～16:15 講演「走るっていいね」
～走ることの楽しさ、大切さについて～
全校児童、教員、保護者・地域の皆様
ア ランニングの楽しさ、大切さについて
イ 生活習慣を整えることの重要性
ウ 質疑応答



5 成果

- (1) 同じスピードで走るコツ、早く走るコツなどの走り方について教えていただき、走ることへの意欲を高めることができた。
- (2) ランニングの効用や規則的な生活習慣の大切さなど、運動や健康に関する講演をしていただき、子どもたちの意識向上につながった。
- (3) 授業において指導法の工夫などについて実際に見せていただき、地域・保護者への意識啓発、及び教師の指導力向上を図ることができた。



6 課題

今年度は1年を通じて持久走に取り組んできた。昨年度はこの「体育・健康教育授業地区公開講座」を7月に設定したが、猛暑のため実技が難しい状況だったため、今年度は冬に設定し、講師の佐藤先生に2年、5年の授業で実技指導、及び全体に対しての講演を行っていただいた。子どもたちが楽しく運動を続け、運動の能力を高めていくことができるような授業や取組をさらに工夫していきたい。

体育・健康教育授業地区公開講座（赤松小学校）

1 目的 体育科の授業を公開することで、本校の体育と健康教育の一端を保護者や地域の方々と考える機会とする。

2 実施日 令和元年11月8日（金）

3 内容

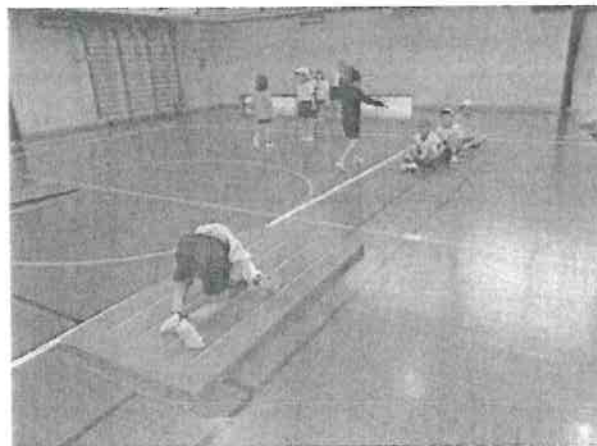
- (1) 第2校時 第1学年 体育「器械・器具を使った運動遊び」
- (2) 第2校時 第3学年 体育（保健領域）「毎日の生活と健康」
- (3) 第3校時 第5学年 体育「走り高跳び」
- (4) 第4校時 保護者・地域向け講演会
演題：「子どもたちの体力づくりのために」
講師：大田区教育委員会 統括指導主事 志賀 克哉 先生

4 成果

- (1) 1年と5年の体育授業を公開することで、小学校の6年間で育つ体力や運動の仕方を具体的に見ていただくことができた。
- (2) 1年の体育では、体育指導補助員が指導補助に入り、児童が体を上手に動かすことに役立っていた。
- (3) 3年の保健領域を扱った授業では、体力や健康の基盤となる手洗い・うがいの大切さについて、体験活動を通して児童の関心を高めることができた。
- (4) 講演会では、参加者にとってより切実感のある内容になるように、本校の体力調査の結果などからお話をいただいた。学校・家庭・地域で連携を図りながら、児童の体力向上に向けた取り組みをしていく重要性について考えることができた。

5 課題

- (1) 学校公開日に本講座を設定できなかったため、参観者が少なかった。健康や体力向上については、より多くの参観者に見ていただき、共に考えていきたい内容である。



体育・健康教育授業地区公開講座（清水窪小学校）

1 目的

- ・体育、健康教育の授業を全学級公開し、授業の様子を参観してもらうことにより、地域・保護者に運動や健康についての取組の必要性について関心を高めてもらう。
- ・体育、健康教育についての講座を行うことにより、地域・保護者と一緒に子どもたちの運動や健康の日常化について考える機会とする。

2 実施日

令和元年10月5日（土）

3 内容

(1) 第2校時 授業公開(全学級)

(2) 第3校時 講演

ア 講演会

演題 「運動が苦手な子供も楽しめる運動」

講師 日本体育協会公認フィットネストレーナー

特定非営利活動法人あか・しろ・きいろ発達障害者(児)支援の会アドバイザー

黒澤 勤志 氏

イ 質疑応答



4 成果

(1) 体育、保健の授業、総合的な学習の時間を公開し、ゲストティーチャー・養護教諭も含めて、全校を挙げて体力向上に向けて、運動だけでなく、オリ・パラ教育や保健学習の取組について理解を図る機会をもつことができた。



(2) 講演会(講演・実技)では、運動療育について知り、参加者が互いにアドバイスし合ったり、励まし合ったりして、コミュニケーションをとりながら運動実技を行った。その中で、運動療育の効果とその必要性を感じる事ができた



5 課題

講演会に実技を取り入れたことで、楽しく有意義な内容になり、参加者には好評だったが、3校時は授業だったこともあり、多くの教員が参加できなかった。可能な限り、多くの教員と一緒に参加できる方法を工夫することが課題である。

体育・健康教育授業地区公開講座（糞谷小学校）

1 目的 日本を代表する選手と直接交流する機会を設けることで、児童が運動に親しみ、自ら進んで運動を行い、意欲を高める。

2 実施日 令和元年11月8日（金）

3 内容

- (1) 1～6時間目 公開授業（金曜時程のクラス）体育
- (2) 2時間目 講演会（1～6年生・保護者）
講話「自分を否定しない生き方」
- (3) 3時間目 実技講習会（5年生・保護者）
ボール慣れやゲームを体験



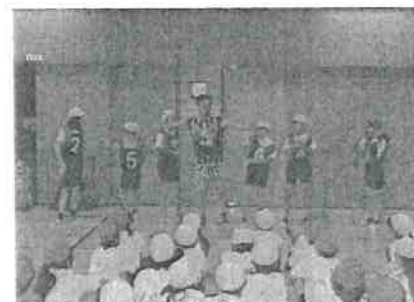
4 成果

- (1) サッカー元日本代表選手の講演を聞き、児童の運動の意欲が高まり、「夢」をもつ大切さを知ることができた。サッカーという競技について知り、興味をもつことができた。
- (2) 体育科の授業を地域・保護者に公開したり、体力テストの結果について報告したりすることで、体力・健康について家庭でも話題にしてもらえるようになってきた。
- (3) 体育の授業を充実させることで、児童の体力も少しずつ高まってきている。



5 課題

- (1) 講演会への保護者・地域の方々の参加が少なかったため、周知の方法等を工夫していきたい。
- (2) 児童が運動に親しみ、自ら進んで運動を行えるように工夫していきたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（東糀谷小学校）

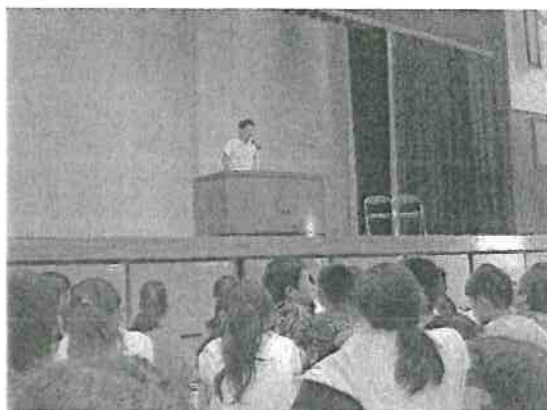
1 目的

オリンピックの話を知ったり実技の講習を受けたりすることで、スポーツの楽しさを感じ、運動に親しむ心を育むと共に、来年開催される東京オリンピックへの関心を高める。

2 実施日 令和元年10月4日（金）

3 内容

- (1) 4校時・・・講演及び質問会
- (2) 5校時・・・実技講習(6年生対象)
- (3) 6校時・・・体力アップチャレンジ
メンバーへの実技講習



ア 「夢を叶えるために」というテーマで講演をいただいた。オリンピック等の世界大会での経験や、夢を叶えるために大切なことなど、経験を通して具体的にお話しいただいた。

イ 6年生の児童を対象に、おに遊びやリレーを取り入れながら、走力を伸ばすための技能を楽しく指導していただいた。

ウ 5・6年生有志を対象に実技講習をしていただいた。インターバルトレーニング法をご指導いただき、中距離を力いっぱい走ることのできる体力づくりの方法を学ぶことができた。

4 成果

(1) 「夢を叶えるために大切なこと」として、3つのテーマでお話しいただいた内容が具体的でとてもよかった。児童から出たたくさんの質問に一つ一つ丁寧に答えていただき、オリンピックを身近に感じることができた。

(2) 5校時の実技講習は運動が苦手な児童も楽しんで参加できる内容で、運動に親しむ態度の素地作りにつながった。

(3) 6校時の実技指導は中距離、長距離を走るための力を付けるトレーニング法を教えていただいた。校内持久走大会、区駅伝大会を目指す児童にとって、これからの練習への動機づけとなった。



5 課題

今回は4年生以上の児童が対象となったが、今後は、1～3年生の児童もオリンピックと触れ合える機会をもっていきたい。

体育・健康教育授業地区公開講座（北糀谷小学校）

1 目的

正しい姿勢の行い方や矯正の仕方などを学び、学校生活だけでなく、日常生活においても意識して実行していこうとする児童を育てる。

2 実施日 令和元年11月9日（土）

3 内容

講師 渋川 光一 氏（放送大学講師・姿勢教育指導士）による授業と講演

(1) 第2校時 公開体験教室 講師による授業（4～6年136名参加）

テーマ「集中力を高める姿勢・体幹が安定する姿勢の作り方」

(2) 中休み 意見交換会

ア 児童は正しい姿勢を保つことが健康や体力向上、学力向上につながることに気付くことができた。

イ 児童の意識だけでなく教員や家庭での取り組みが重要な課題である。

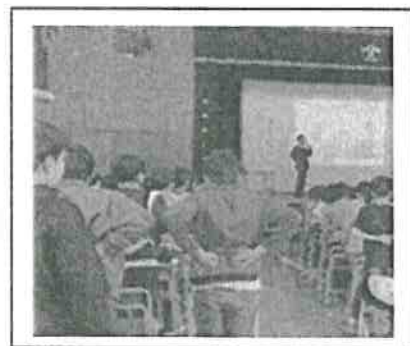
(3) 第3校時 公開体験教室 講師による授業（1～3年145名参加）

テーマ「まほうのすわりかた ～スポーツがうまくなる あたまのかいてんがはやくなる～」

4 成果

(1) 正しい姿勢を保つことにより脳が活性化し、集中力が高まり、学力の向上が期待できることを具体的なデータを基に説明いただいた。児童は正しい姿勢を保つことが健康や体力向上、学力向上につながることに気付くことができた。

(2) 保護者アンケートでも「家庭でも意識して取り組みたい。」「(子供の) 姿勢の直し方が分からなかったなのでそのヒントをいただいた。」等の意見ばかりで好評であった。



5 課題

(1) 学校において学んだ正しい姿勢を実践するだけでなく、家庭でも意識させながら家庭学習に取り組ませるようにする。

(2) 多くの保護者・地域の方にご覧いただけるよう、土曜授業に設定したり、事前にお知らせ等を配布したりしたが、参観人数はあまり伸びなかった。来年度は、開催時期等を含めて検討していく。



体育・健康教育授業地区公開講座（羽田小学校）

1 目的 本校の体育指導、及び健康教育の取組について保護者に理解していただくとともに、講演会を通して、児童を取り巻く諸問題について知っていただく。

2 実施日 令和元年11月9日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 体育・保健授業・その他授業
- (2) 第2校時 講演及び意見交換会
- (3) 中休み 外遊び
- (4) 第3校時 体育・保健授業・その他授業
- (5) 第4校時 羽田っ子塾（補習教室）

ア 低学年を中心に体育授業を実施する。日頃から取り組んでいる、基本的な体の動きを身に付ける運動を保護者に示して理解を図る。

イ 中学年以上は健康教育として保健を実施する。生活習慣と体調の変化、病気の予防等について児童に考えさせ、保護者の理解を図る。

ウ 6年生は薬剤師を講師にお招きし、児童に「薬物乱用防止教室」を実施した。同時に参観した保護者への理解を図る。

4 成果

(1) 1・2年生では、器械・器具を使つての遊びや多様な動きをつくる運動遊び、3～6年生では保健の健康教育を実施した。児童が主体的に学び、知識及び運動を深めていく姿がたくさん見られた。

(2) 休み時間には、体力向上の取組の1つである「長縄飛び」にチャレンジする子どもたちの様子も見せることができた。

(3) 地域のミニバスケットボールを指導してくださる講師の先生をお招きして、子どもの心とスポーツについての講演会を開いた。参加して下さった保護者や地域の方に好評であった。



5 課題

(1) 全クラスで体育授業か保健授業を見ていただいたが、土曜の短時間では時数が少なく、中・高学年の体育授業を見せることができなかった。

(2) 講演会は話だけでなく活動の動画も見ていただいたが、時間が長引いてしまい、質疑応答の時間を十分確保することができなかった。

体育・健康教育授業地区公開講座（都南小学校）

1 目的

これまでコーディネーショントレーニングの研修を多くの教員が参加してきた。コーディネーショントレーニングは、運動のみならず、脳と心に刺激を与えることで、学びの力を引き出すことができ、すべての教育活動にいい影響を与えることを実感している。そこでそのよさを保護者や地域の方にも実感してもらえるように体育・健康教育授業地区公開講座で実施した。

2 実施日 令和元年6月29日（土）

3 内容

- (1) 第2校時 4年生（1組）親子で取り組むコーディネーショントレーニング
- (2) 第3校時 4年生（2組）親子で取り組むコーディネーショントレーニング
 - ・授業の中で講演会と親子コーディネーションを実施し、保護者の理解を深めた。
 - ・当日は学校公開とし、どの学年の保護者も参加できるようにした。

4 成果

- (1) コーディネーショントレーニングのよさを保護者や地域の方々に理解していただけてきた。
- (2) 「子どもたちがとても生き活きと楽しそうで、こういう体験は貴重である」という意見が多くあった。
- (3) コーディネーショントレーニングは、保護者の参加も多く、活動が充実している。



5 課題

- (1) どの学年の保護者にも呼びかけたが、ほとんどが4年生とPTAの参加だった。
- (2) 「低学年のうちからやっていただくと、より早く家庭でも還元できる」という意見があった。



体育・健康教育授業地区公開講座（萩中小学校）

1 目的

- 体力向上モデル校としての取組を公開し、保護者や地域への理解を広げる。
- 体力向上の基本的な取組として、児童の日常的な姿勢の改善について保護者の方との情報交換の場とする。

2 実施日 令和2年1月11日（土）

3 内容

（1）第2校時 1～3年生対象の講話

「すば一つがうまくなる あたまのかいてんが
はやくなる まほうのすわりかた」

（2）中休み 意見交換会・質疑応答

（3）第3校時 4～6年生対象の講話

「集中力を高める姿勢 体幹が安定する姿勢」～一生の体力の作り方～



4 成果

（1）よい姿勢を意識するための簡単なストレッチ「キヤット
レッチ」を体験し、教室でも家庭でも手軽にできる姿勢保
持のスキルを身に付けることができた。

（2）椅子の正座、立ち座の基本姿勢を習得した。

よい姿勢を保つことの必要性を子どもにうまく伝えられ
ないという保護者の相談に対して非常に説得力のある解説
をしていただき、家庭でも積極的に取り組んでいきたいと
いう保護者の意欲につながった。

（3）始業就業の挨拶時に全校統一でよい姿勢を意識してい
きかけとなった。



5 課題

（1）毎日の取組を継続していくことが重要である。

（2）保護者会やPTA研修の場で積極的、継続的に啓発してい
くことが大切である。



体育・健康教育授業地区公開講座（中萩中小学校）

- 1 目的 ○ 児童の体力向上と健康の増進を目指す本校の取組への理解を深める。
○ 一人ひとりが、自分の体力に関心を持ち、体力の向上を目指す。

2 実施日 令和2年2月17日（月）

3 内容

（1）授業公開

- 第2校時 3年1組 ジャイアンツアカデミー
6年1組 ゴール型ボール運動
6年3組 保健 病気の予防
第3校時 3年2組 ジャイアンツアカデミー
1年2組 体づくりの運動遊び
第4校時 4年1組 ポートボール



（2）実技・講演

ア 演題 投げる

イ 講師 ジャイアンツアカデミー 岡本コーチ・成瀬コーチ

ウ 内容

3年生が学級ごとに、ベースボール型の基礎となる投げる・とる運動について学習を行った。学習の最後には、ミニゲームを行った。

4 成果

（1）オノマトペを用いた投げる指導

「トン、トン、クルッ」という投げるときの合言葉を習いそれに合わせて、投げる練習を行った。そうした、リズムのよい掛け声によって、ボール運動に苦手意識のある児童も楽しく投げる活動を行うことができた。

（2）投げる、とる運動がメインとなったミニゲーム

学習の最後にバックホームゲームという簡単なミニゲームを行った。このゲームは、投げる・とるという動作のみ使ったゲームである。本時の学習で習ったことを生かすことができ、ルールが簡単であるため能力の差がそれほど目立つことがなく行うことができた。児童がチームごとに明るく声を掛け合い、かかわりあう姿が見られた。



5 課題

（1）保護者の参観人数

事前に学年便りや学校からの便りなどにより、本時の学習活動について周知を行っているが、参観人数が両学級合わせて10名弱となっていた。体力向上に対して保護者を啓発していく工夫が必要である。



体育・健康教育授業地区公開講座（出雲小学校）

- 1 目的 東邦大学病院の医師である栃木直文先生をお招きし、「がん」という病気について知るとともに、がんにならない生活習慣や治療について児童・保護者・地域の方々の理解を深め、がん教育の必要性を保護者・地域の方々と共有する。

- 2 実施日 令和元年9月28日（土）

3 内容

(1) 第1校時 6年3組授業

(2) 第2校時 6年2組授業

(3) 第3校時 6年1組授業

*第1校時から第3校時まで

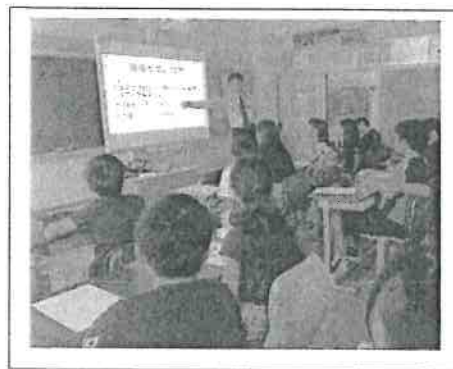
教科 体育科保健領域「病気の予防」 講師 東邦大学病院医師 栃木直文 氏

(4) 放課後 講演及び意見交換会

講師 東邦大学病院医師 栃木直文先生

ア 児童向けに「がんとはどのような病気なのか」「がんを防ぐための生活習慣」などについて授業をしていただき、がんについての基礎的なことを知ることができた。

イ 保護者・地域の方に向けて「がん教育」の必要性を講演していただき、がん教育を進めていく必要性を共有することができた。

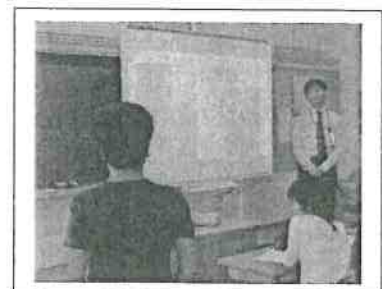


4 成果

(1) 専門家である外部講師の栃木先生が、「がん」という病気について、特別な病気ではなく、日本人の半数がかかっているものであることを話していただいたことで、児童が怖さや不安が少なくなり、正しい知識を身に付けることができた。

(2) がんになる原因は生活習慣が大きくかかわっていることや、がんの治療法について、授業や講演会で、資料を基にお話しいただき、がんについて知識を深めることができた。

(3) 講演会で、がん教育の実践や命の大切さについて、保護者や地域の方々と共有することができた。



5 課題

(1) 事前に保護者や地域に知らせた。講演会を学校公開に合わせ設定したが、参加される保護者が少なかった。

(2) 初めての試みということもあり、講師との連絡を常に取りながら詳細を詰めていく必要があった。



体育・健康教育授業地区公開講座（六郷小学校）

1 目的

保護者や地域住民が体育科・健康教育に関する授業を参観するとともに、児童の体力向上について協議することで、体力向上についての意識啓発を図り、学校・家庭・地域の取組を推進することを目的とする。

2 実施日 令和元年11月6日（水）

3 内容

(1) 第2校時 おなか元気教室（2年生）

講演及び意見交換会

「早寝、早起き朝ごはん、朝うんち」をテーマに健康のために、正しい食習慣・生活習慣を身に付けることの大切さを講演

(2) 第3校時 投げ方教室（3年生）

(3) 第4校時 投げ方教室（6年生）

ヤクルト球団のOB選手による正しいボールの投げ方や遠投力についての実践講習



4 成果

(1) 「おなか元気教室」では教員と保護者、地域住民による意見交換を行うことができた。教員、保護者、地域住民が子どもたちの体力向上や健康の保持増進について考えることができた。

(2) 「投げ方教室」では講師から子どもたちが直接正しいボールの投げ方や遠投力についての講習があり学ぶことができた。体力調査結果から本校の課題であった投力低下に対する効果が期待できる。



5 課題

(1) 「おなか元気教室」は、健康のために、正しい食習慣・生活習慣を身に付けることの大切さについての講演であった。2年生だけでなく全学年向けに行うようにしたい。

(2) 「投げ方教室」で講師から習った正しいボールの投げ方や遠投力を、全教員で共有し全学年で体育の時間に実施できるようにしたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（西六郷小学校）

1 目的

日頃の体育の授業や健康教育について、全学級で保護者や地域の方へ授業を公開し、体力向上や健康に関する意識を啓蒙する。

2 実施日 令和2年2月15日（土）

3 内容

クラス		教科・領域	単元名
1年	1組	学活	しょくレンジャー大かつやく
	2組		やさいとなかよし
2年			
3年		保健	毎日の生活と健康 「ヤクルト おなか元気教室」
4年			育ちゆく体と心
5年		体育	アシックスかけっこ教室
6年			アシックスかけっこ教室
四組	1～3年	生活単元	食生活を考えよう
	1～4年	体育	なわとび発表会
	4～6年	生活単元	世界の食事を見てみよう

※3年、5年、6年は、該当学年の四組児童も共同学習として参加した。

4 成果

3年生は、東京ヤクルト販売株式会社の方を講師に招き、「おなか元気教室」を開催した。食べ物が口から入り、便として出るまでの道のりや、何気ない生活習慣が排便と密接に関わっていることを学んだ。また、実際の腸の長さの布模型など視覚に働きかける教材があり、自分の体の中の様子を、体験を通して知ることができた。「早寝・早起き・朝ごはん」という規則正しい生活の大切さを保護者の方にも再認識してもらうことができた。

5・6年生は、アシックスジャパン株式会社の方と駿河台大学陸上部のコーチに来ていただき、適正な靴の選び方と履き方、速く走る走り方を学んだ。うでの振り方と足の動かし方を実際に走りながら体感することができた。



5 課題

3年生の「毎日の生活と健康『おなか元気教室』」では、おなかの中のことと便の種類などを知ることができたが、その知識を生かして、なにか実践するということころまでは、できていない。「早寝・早起き・朝ごはん週間」と連携して、行動変容をチェックできるようなワークシートなどがあると学んだ知識を十分に生かせるのではないか。

5・6年かけっこ教室については、今後の生活に生かすために、振り返りをしたり、走り方の復習をしたりするなどして継続していく必要がある。

体育・健康教育授業地区公開講座（高畑小学校）

1 目的

体育の授業や健康教育の実践等を公開し、保護者や地域の方に本校の体育・健康教育の取組への理解を図る。児童や保護者の健康への関心を高め、「がん教育」についての基本的な知識理解を図り、安全で健康的な生活を送ることができるようにする。

2 実施日 令和2年2月7日（金）・8日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 第1校時 授業公開
保健体育授業公開（3年）
- (2) 第2校時 授業公開（全学級）
保健体育授業公開（2年）（5年）
- (3) 中休み 体力向上長縄タイム
- (4) 第3校時 授業公開（全学級）
保健体育授業公開（1年）（4年）（6年）
- (5) 第4校時 講演及び意見交換会



講師：東邦大学大学院医学研究科 栃木 直文 氏

- ア 6年生の保健体育の授業として東京都教育委員会による「がんについて学ぼう」のリーフレットを参考に授業を行った。
- イ 授業の様子を講師は参観し、その点も踏まえ、その後、保護者を対象に「小学生に対するがん教育」をテーマに講演を行った。

4 成果

- (1) がんという病気そのものについての説明から、健康教育の視点での生活習慣の改善まで、身近な実践内容を丁寧に講義いただき、がんについての理解が深まった。
- (2) 6年生への保健授業と関連しながらの講演会としたことで、保護者の意識啓発に有効であった。
- (3) 本校における体育・健康教育への取組の一端を保護者や地域の方に理解していただく機会となった。アンケートにも多くの好意的感想が寄せられた。

5 課題

- (1) 講師の選定・確保が円滑に行えるとよい。
- (2) 今回の講演内容を児童への働きかけにつなげていきたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（仲六郷小学校）

1 目的 踊る楽しさや面白さを体験し、「協調性」「集中力」「表現力」を高める。

2 実施日 令和元年12月14日（土）

3 内容

(1) 第2校時 講演・実技指導（全学年）

(2) 第3校時 実技指導（全学年）

(3) 第3校時終了後 意見交換会（保護者）

ア 「HIP HOP ダンス」をダンサーに踊ってもらい、「HIP HOP ダンス」のイメージを児童にもたせ、ダンスへの興味や関心を高める。

イ 「OTA キネマ音頭」を全校児童で踊り、「HIP HOP ダンス」を習得するためのウォーミングアップをする。

ウ 「HIP HOP ダンス」という踊りがどういうものなのかをステップや上半身の使い方を見せながら講話していただき、「HIP HOP ダンス」の理解を深める。

エ 「HIP HOP ダンス」の「ステップ」「全身を使つての表現方法」を指導していただき、全校児童で曲に合わせて踊る。

オ 学んだ「HIP HOP ダンス」を5・6年、3・4年、1・2年のペア学年で見せ合う。



4 成果

(1) 児童は「HIP HOP ダンス」の楽しさを十分に味わうことができ、ますます表現運動への興味や関心が高まった。保護者の参加が多く、保護者の「HIP HOP ダンス」への見方が変わり、家庭でも取り組みたいという保護者もいた。



(2) 児童は「ステップ」「全身を使つての表現方法」を習得することができ、「HIP HOP ダンス」への理解が深まった。



(3) 児童は「OTA キネマ音頭」から始まり40分ほど集中して踊り続け、持久力を高めることができた。

(4) 児童は、「HIP HOP ダンス」の授業を通して、自由に表現するよさを学ぶことができた。

5 課題

(1) 児童は思いっきり自由に踊ってほしいが、全学年が一斉に受講し、さらに保護者が参観したことにより踊るスペースがやや狭くなってしまった。

(2) 表現運動が大好きな児童なので、次年度は、学んだ「OTA キネマ音頭」等の踊る機会を学期ごとに企画していきたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（志茂田小学校）

1 目的

チアリーディングを鑑賞・体験することで、スポーツをする楽しさ、応援することのすばらしさを知る。

「AED入門」を受講することで、救命の大切さを知り、やり方を習得する。

2 実施日 令和2年2月7日（金）

3 内容

- (1) 第2校時 AED 教室（5・6年生）
- (2) 中休み チアリーディング演技鑑賞（全校）
- (3) 第3校時 チアリーディング体験（1・2年生）
AED 教室（5・6年生）
- (4) 第4校時 チアリーディング体験（3・4年生）
- (5) 第5・6校時 授業公開



4 成果

- (1) チアリーディングの本格的な演技を見ることができた。
チアリーディングの踊りやリフトを体験したり、音楽に合わせて体を動かしたりすることで、楽しさを知った。最後に、クラスごとに発表会をすることで、達成感を感じることができた。



- (2) 応急救護（心肺蘇生）の必要性について映像を通して学ぶことができた。また、小グループに1名の指導者（消防団員）がついてくださったことで、AEDの使用方法や心肺蘇生法の行い方について実践を交えて学ぶことができた。



- (3) 5年1組「ハードル走」を公開したことによって、保護者や地域に向けて、日ごろの体育の授業の様子を伝えることができた。また、児童は話し合い活動を通して、ハードルを跳ぶときのコツを見つけたり、自己の課題に合った練習方法を選び、活動したりすることができた。



5 課題

- (1) 来年度以降も引き続き講師依頼する方向で検討する。
- (2) 健康や運動に対して、家庭への働きかけの方法を考えていく必要がある。

体育・健康教育授業地区公開講座（東六郷小学校）

1 目的

- ・ 体を動かすことの大切さ、そのために食事は児童自身の「生活」と直結していることを学び、食に関する自立を促す。
- ・ チャレンジ週間と合わせ、朝食を食べることで、元気に学校で活動できることを学び、食を意識して毎日の生活を送る児童を育てる。

2 実施日 令和元年5月18日（土）

3 内容

- (1) 第2・3校時 すすんで運動、しっかり食べよう～みるく教室～というテーマで講話、クイズや体操を通して毎日の食事の大切さを学んだ。



4 成果

- (1) 児童にとって食べ物が体を作り、自分の成長に必要なものであるというイメージはあったが、摂取した食べ物が、自分が動いたり、成長したりするためのエネルギーになるという具体的な内容に大変興味・関心をもつことができた。
- (2) 特に朝食の重要性を知り、大田区で行っている「早寝・早起き・朝ご飯の活動」と連動して、時間を伴いながら児童に指導することができた。朝食を進んで取る児童も増えた。
- (3) 保護者と共に講話を聴いたり、運動を行ったりすることで、家庭での話題となり、保護者の意識も高まった。



5 課題

- (1) 楽しく学習することができたが、すべての児童が日常的に食の重要性を理解し、生活をするためには、引き続き学校と家庭の連携が必要であるため、以後の具体的な取り組みが重要である。
- (2) 今回のプログラムは「食」がテーマであったが、今後、児童に「睡眠」や「運動」の大切さにも気付かせ、意識が高まるように、教科や行事を通じ、指導をしていく。また、同時に保護者会や学校からのお便りなどを活用し、保護者への啓発もしていく必要がある。

体育・健康教育授業地区公開講座（南六郷小学校）

1 目的 がんという病気について正しく知ろう

2 実施日 令和2年1月11日（土）

講師：東邦大学 病理診断科 准教授 栃木 直文

3 内容

(1) 第3校時 6年生対象

「がんについて知ろう」

2人に1人がかかるといわれているがん。いったいどんな病気なのか。なぜ、がんになってしまうのか。健康に過ごすためには、

- ・運動の習慣をつける。
- ・食（食物繊維を多く）に気を付ける。
- ・自分の体のことをしっかり知る。
- ・禁煙（受動喫煙も怖い）に心がけていくことが大切であることを教えていただいた。

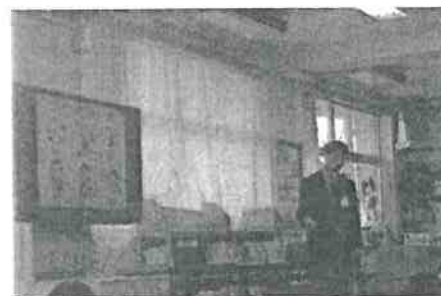


(2) 第4校時 講演及び意見交換会 保護者・地域の方対象

「子どもに語るがん教育」

健康とは、精神的・身体的・社会的に安定している状態であるといわれている。

がんに関しても、がんに向き合い生き生きと生活を続け、治療を受けながら仕事をしている人もおり、がんを経験した人の気持ちを考え、告知を受けた時に家族にどう伝えるかを考えた。早期発見のためにも、定期健診を受けようになりたい。



4 成果

- (1) がんは恐ろしい病気ではなく、誰にでも起こりえる、早期発見すれば治る病気だということを知ることができた。
- (2) がんについて正しく理解するとともに、健康と命の大切さについて考えることができた。
- (3) がんを防ぐための新12か条を知り、生活習慣の見直しをすることができた。

5 課題

- (1) 子ども向けの講座が主だったので、内容的に地域向けにはもう少し深い内容がよかった。
- (2) 保護者の集まりやすい日時に設定しても、関心がないのか保護者がなかなか集まらない。

体育・健康教育授業地区公開講座（矢口小学校）

1 目的

体を動かすことの気持ちよさ、心地よさを十分に味わわせ、進んで運動しようとする姿勢を育てる。

2 実施日 令和元年12月12日（木）

3 内容

(1) 第1校時 授業公開

(2) 第2校時 講演 北京五輪陸上男子400mリレー銀メダリスト 末續 慎吾 氏
講演 「走ることの楽しさ」（1～3年）

(3) 中休み 公開

(4) 第3校時 講演 北京五輪陸上男子400mリレー銀メダリスト 末續 慎吾 氏
講演 「夢に向かって努力することの大切さ」（4～6年）

(5) 第4校時 授業公開

4 成果

(1) 外遊びが好きではなかった児童も、月一回の『クラス遊び』では友達と共に遊ぶことに楽しさを見出し、楽しく外遊びに取り組むことができた。

また、中休みに校庭に出る習慣がない児童が校庭に出て体を動かすきっかけとなった。

(2) 登り棒やジャングルジムなど高学年も普段使わない遊具等を使用することで、教師の意図した体力をつけることができた。

(3) マラソンタイム、なわとびタイムを定期的に行うことで、目標をもって運動に取り組む姿勢が育った。

(4) 運動補助員の方に授業に参加してもらったことによって、自身の課題が見つかり、技能の向上につながった。

5 課題

すすんで運動をしようとする姿勢は身に付いてきた。今は遊びのリーダーを教員が行っているが、段階を踏んで児童が遊びのリーダーとなり、身に付けさせたい動きに沿って、児童自ら遊びを選択し、主体的に遊べるようにしていく。



体育・健康教育授業地区公開講座（矢口西小学校）

1 目的

- ・スポーツの意義や価値等に対する理解・関心を向上させる。
- ・これからの社会に求められる資質・能力（努力、尊敬、感謝、尊重など）を育成する。
- ・生涯にわたる心身の健康の保持増進を目指し、基本的な生活習慣と健康的な生活を実践できる態度を身に付ける。

2 実施日 令和元年10月19日（土）①②③校時

3 内容

- ・オリンピックバスケット選手による実技と講話
実技（体育館）5、6年、講話（体育館）3、4年
講師 バスケットボール元日本代表 岩屋 睦子選手
- ・食育 箸の持ち方についての授業 講師 伊藤久美子栄養士
 - （1）第1校時 体育健康教育授業公開講座(オリパラ教育)バスケットボール実技(6年生) 食育（1-1、1-2）
 - （2）第2校時 体育健康教育授業公開講座(オリパラ教育)バスケットボール実技(5年生) 食育（1-3、1-4）
 - （3）中休み 会場準備、機材確認等※体育館遊びなし
 - （4）第3校時 体育健康教育授業公開講座（オリパラ教育）バスケットとボール選手による講話（3、4年生）

4 成果

- （1）児童がアスリートとかかわりながらバスケットボールを実際に体験できてよかった。
- （2）児童・保護者がスポーツや体力向上に関心をもち、体力向上の意識啓発の機会となった。
- （3）生涯にわたる心身の健康の保持増進、よりよい基本的な生活習慣、健康的な生活を実践できる態度を身に付けることを啓発する機会となった。

5 課題

- ・実技に続いて講話を聴きたかったという児童が多かったので、指導計画を改善する。

体育・健康教育授業地区公開講座（多摩川小学校）

1 目的

- 体育・健康教育の授業を公開し、授業の様子を参観してもらうことにより、地域・保護者に運動・健康について、取り組みの必要性について関心を高めてもらう。
- 体育・健康教育についての講座を行うことにより、地域・保護者と一緒に子どもたちの運動や健康の日常化について考える機会とする。

2 実施日

令和2年1月11日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 体育：1年3組
- (2) 第2校時 生活（食育）：2年2組
- (3) 第3校時 講演及び意見交換会
- (4) 第4校時 体育：6年2組
生活（食育）：1年2組

ア 体育の授業公開では、1年生と6年生の授業を公開した。発達段階において、どのような運動が行われているか紹介した。

イ 食育では、低学年の児童が食について興味をもち、命について感謝の気持ちをもつ授業を行うことができた。

ウ 講演について

テーマ：「子どもの成長期と硬くなった?!保護者の為のストレッチ」

講師：Dr・ARMS トレーナー 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
永井 将史 氏

4 成果

- (1) 1年生と6年生の授業を公開することで、発達段階の違いにおける体育指導について地域・保護者に理解してもらくことができた。
- (2) 食育を通して、児童が食に関して関心をもち、さらに「命をいただく」という視点から感謝の気持ちをもたせることができた。
- (3) 中休みに、芝生の校庭での児童の遊ぶ様子を見てもらうことを通して、安全な環境で児童がのびのびと活動する姿を見てもらうことができた。
- (4) 講師を招いての講座を通して、成長期における柔軟性を育むストレッチの必要性について理解せても楽と共に、家庭での運動の啓発につながった。

5 課題

参加者アンケートから、「ストレッチを児童と共に行いたかった」という声があった。講座のもち方について、よりよい方法を考えていきたい。



体育・健康教育授業地区公開講座（相生小学校）

1 目的 児童の体力の向上や健康への意識を高める。また、保護者や地域の方への体力に関する理解を深め、体力向上について意見を交流し、家庭や地域での推進を図る。

2 実施日 令和2年2月8日（土）

3 内容

(1) 第1～3校時 公開授業

(体育、保健、家庭科、学級活動など)

(2) 中休み 長縄（一校一取組）

(3) 第2校時 6年保健授業

講師 東邦大学医療センター大森病院 医師 栃木 直文氏

講話 「がんについて（がん教育）」

4 成果

(1) 今年度の講演会は、6年の保健「がん教育」の授業に現職の医師の方を講師にお迎えして、保護者や地域の方の参加を呼びかけた。がんについて理解を深めるとともに健康な生活について親子で考える機会となった。

(2) 今年度、外壁工事が行われ、2学期は校庭が半分の広さしか使用できないことから、運動会を6月に実施した。また、各学年の体育の指導計画、体育集会など見直し、体力向上のための取り組みが年間を通して計画的に行われた。

(3) 体育委員会が主催する体育集会（相生ギネス短縄・長縄、持久走など）を定期的に行うことにより、目標に向かって学級で努力したり、友達と協力したりする姿が見られた。

(4) 毎日始業前の15分間朝遊び、毎週水曜日は30分に拡張した元気アップタイムという時間を設定し、外遊びの時間を十分確保している。教員も交わり、クラス遊びを呼びかけることで、多様な遊びや関わりが見られた。



5 課題

(1) 学校の立地条件から、児童が運動に親しむ機会が少ないため、体力向上を図るためには、今後も、年間を通して意図的・計画的な取り組みが必要である。

(2) 児童が健康な生活をする上で、地域や家庭との連携が重要である。

体育・健康教育授業地区公開講座（矢口東小学校）

1 目的

矢口東小学校の日常（児童や教職員の様子、施設や周囲の環境等）を参観し、学校の現状や学校で行われている教育活動について理解を深める機会とする。

- (1) 児童の様子から、本校の教育活動の理解と共に協力を得る。
- (2) 教職員（教員・事務・主事）の仕事の実際を図る。また、保護者及び地域との連携を深める機会とする。
- (3) 保護者・地域への体力に関する理解を深め、体力向上の意識を啓発し、家庭や地域ぐるみで体力向上の取組を推進する。

2 実施日 令和元年10月19日（土）

3 内容

(1) 時程

第1校時	授業公開
第2校時	授業公開
第3校時	講演

(2) 講演の概要

講師：ウィルチェアラグビー リオデジャネイロパラリンピック銅メダリスト
官野 一彦 氏

- ・ 幼少の頃から現在までのスポーツとの関わりについて
- ・ 障害者となった経緯と考えたことについて
- ・ 目標を設定することと努力することについて
- ・ これからの目標と現在の状況について

4 成果

講師自身の障害との関係やスポーツとの関係について、出来事とそのときの気持ちや考えたことなどを具体的に児童に分かりやすい言葉で話していただいた。その話を聞き、目標を設定する契機はどこにでもあること、自分で設定した目標へのモチベーションはそうでない場合とは違うこと、そして、誰にでも可能性があり、その可能性は自分の力で広げることができることを理解することができた。

5 課題

講師の講演は、体育・健康教育に限定された内容ではなく、広く何かに向かうことをテーマとした講演で、とてもよい話であった。「体育・健康教育地区公開講座」をどのように捉えるかによって、どのような講座を開催するか多様なもち方を考えていくことが課題である。

体育・健康教育授業地区公開講座（おなづか小学校）

1 目的 喫煙の害についての理解を深め、児童、保護者に喫煙防止への啓発を図るとともに、将来的な実践力につなげさせる。

2 実施日 令和元年9月19日（木）

3 内容

第6校時 講演 及び意見交換会

- (1) 6校時：6年生児童、保護者、教職員向けに喫煙防止教室を開催する。
（区で作成したプレゼンテーション資料を基に、内科校医、歯科校医が講義）
- (2) 6校時終了後、保護者、教職員、学校医、学校薬剤師による意見交換会を行う。



4 成果

- (1) 学校医が講義することにより、喫煙は絶対に良くないということが強く伝わった。また、喉頭がん、肺がんなどの健康被害についての理解を深めることができた。
- (2) 学校医が集まる「学校保健委員会」と同日開催したため、講師でお願いした2名の他に、耳鼻科、眼科、薬剤師、それぞれの立場からも喫煙の害、禁煙外来の実情など、詳しく聞くことができた。
- (3) 保護者が授業参観し、その後の意見交換会に参加することで、喫煙者と非喫煙者、特に児童への健康被害について理解を深めることができた。

5 課題

本講座は、保護者が児童と共に授業に参加し、健康について考える良い機会である。毎回、参加した方の意識を高められているが、保護者の参加がなかなか増えない。今後、より多くの保護者の参加を促すことが課題である。



体育・健康教育授業地区公開講座（道塚小学校）

1 目的

- 児童の体力や技能の向上を目指し、課題意識を明確にした体育指導を実践する。
- 体力は、知力や気力の基礎であり、学力の向上と大きな関係があることを保護者や地域の方々に理解していただく。
- 学校・家庭・地域が協力して、児童の体力向上の取り組んでいけるようにする。

2 実施日 令和2年2月8日（土）

3 内容

- (1) 第3校時 体育授業公開
- (2) 第4校時 親子参加型体育授業（1年）
引き続き意見交換会
講師：トレーナー 岩切 誠 先生

4 成果

- (1) 親子で取り組むことにより通常の体育授業や家庭生活にも共通して役に立つ内容の学習をすることができた。
- (2) 「座っている時間が長い」ことの、日常生活への影響を理解し、対策として取り組める内容実践を保護者も理解することができた。
- (2) 今年度の体力テストの結果では、低学年でも成果が現れていることから、今後も継続して伸ばさせて、本校の体力向上に向けた取組への理解も深まった。

5 課題

- (1) 授業の参観者が多いものの、引き続き行った意見交換会では若干減員となった。他学年の保護者にも参呼びかけたが、さらに参加者が増えるよう改善が求められる。



体育・健康教育授業地区公開講座（蒲田小学校）

- 1 目的
- ・自らの目標をもって自己を肯定し、ベストを尽くそうとする意欲と態度を育成する。
 - ・オリンピックとの交流を通じ、スポーツの素晴らしさや夢や希望をもち続けることの大切さについて気付かせる。（オリパラ教育）

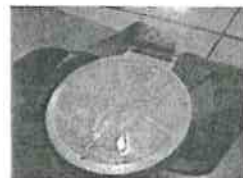
2 実施日 令和元年7月6日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 5年生 フェンシング教室
- (2) 第2校時 6年生 フェンシング教室
- (3) 第3校時 講演

テーマ「スポーツの素晴らしさ、夢や希望をもつことの大切さ」

- ア オリンピックの意味や体験談
- イ 挫折した経験と努力した結果



4 成果

- (1) 普段の生活をしている中ではなかなか触れることのないフェンシングという競技と出会うことで、オリンピックに興味をもつことができた。
- (2) 一流の選手でも失敗や挫折を味わい、それを乗り越えることで成長していくことができた経験を聞き、自分のこととして捉えることができた。
- (3) 失敗を恐れない心、挑戦していこうとする心を育むためのきっかけとなった。



5 課題

- (1) 全校児童、保護者に向けての講演であったが、難しい言葉がでてきたため、低学年には理解しにくい話もあった。
- (2) 当日、機器のトラブルのため、実際のフェンシングを体験する機会が多くもてなかった。



体育・健康教育授業地区公開講座（南蒲小学校）

1 目的 一流アスリートから直接指導を受けることをで、児童の動への関心を高め、すすんで運動する意欲を高める。

2 実施日 令和元年10月29日（火）

3 内容

(1) 第1～6校時 全学級で体育、保健、食育に関する授業公開

(2) 第3校時 講演及び意見交換会

ア、演目 「スポーツの素晴らしさ」

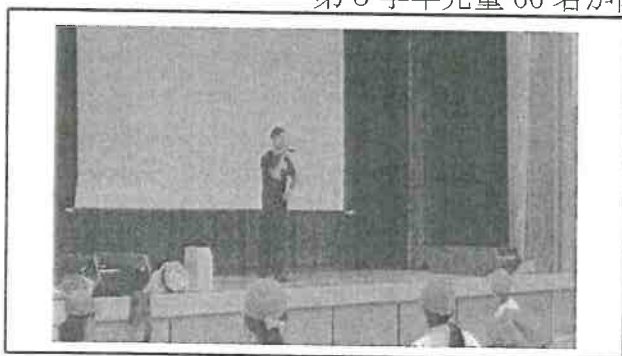
イ、講師 陸上競技（短距離・砲丸投げ・円盤投げ・ハンマー投げ）

日本選手権出場 入賞

ボブスレーオリンピック出場 宮内 優 氏

ウ、参加者 第5、6学年児童136名と保護者・地域の方24名が参加した。

第6学年児童66名が陸上（走の運動）の技術を教わった。



4 成果

(1) 宮内先生の陸上競技およびボブスレーの経験談から、「スポーツの素晴らしさ」について理解を深めることができた。

(2) 「スポーツを通して身に付いたこと」として、努力して続けてきたことはいずれ将来の自分の活躍につながる。意味のない勉強や運動はないから、今やっていること手を抜かずがんばってほしいと語っていた。児童は、熱心に話を聞き入っていた。また、有意義な講演であったとの感想が寄せられた。

(3) 本公開講座に合わせてオリンピック・パラリンピック教育を含む体力向上に関する掲示を増やしたことにより本校の取り組みについての理解が深められた。



5 課題

今回は、講座を平日に実施したためか保護者の参加が少なかった。通知方法や開催時期を考えていく。



体育・健康教育授業地区公開講座（東蒲小学校）

- 1 目的 体を動かすことの楽しさ、大切さを知り、一生を通じて運動に親しみ、体力の向上を図ろうとする態度を育てる。

- 2 実施日 令和元年11月9日（土）

3 内容

- (1) 第1校時 各学級で体育の公開授業
(2) 第2校時 各学級で体育の公開授業
5年生は体育館で羽田ヴィッキーズの選手
によるバスケットボールの授業

- (3) 中休み 校庭遊び

- (4) 第3校時 実践報告、講演及び意見交換会

- ア 「本校の体力向上の取り組みについて」本校職員、体育委員会児童
イ プロバスケットボールチーム「羽田ヴィッキーズ」の選手による講演
講演後、質疑応答



4 成果

- (1) 全校で体育の授業を実施したことにより、地域・保護者への学校の取り組みを知ってもらう機会になった。
(2) 子どもたちの体力向上への関心・意欲が高まった。
(3) プロスポーツ選手の講演によって、子どもたちのスポーツへの興味・関心が高まった。
(4) プロスポーツ選手の講演によって、保護者が子どもの体力向上や未来への展望等を子どもと考える機会になった。



5 課題

- (1) 限られた時間の中で全校の体育実施は場所の確保が難しい。特に雨になった場合等。
(2) 講師をみつけ、依頼するのが難しい。講師の先生リストのようなものがあるとありがたい。

